議 事 日 程

- 1 議案第22号 平成21年度兵庫県太子町国民健康保険特別会計予算
- 2 議案第23号 平成21年度兵庫県太子町介護保険特別会計予算
- 3 議案第24号 平成21年度兵庫県太子町老人保健特別会計予算
- 4 議案第25号 平成21年度兵庫県太子町後期高齢者医療特別会計予算
- 5 議案第26号 平成21年度兵庫県太子町墓園事業特別会計予算
- 6 議案第27号 平成21年度兵庫県太子町下水道事業特別会計予算
- 7 議案第28号 平成21年度兵庫県太子町前処理場事業特別会計予算
- 8 議案第29号 平成21年度兵庫県太子町水道事業会計予算
- 9 議案第1号 平成20年度兵庫県太子町一般会計補正予算（第4号）
- 10 議案第2号 平成20年度兵庫県太子町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）
- 11 議案第3号 平成20年度兵庫県太子町介護保険特別会計補正予算（第3号）
- 12 議案第4号 平成20年度兵庫県太子町老人保健特別会計補正予算（第3号）
- 13 議案第5号 平成20年度兵庫県太子町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
- 14 議案第6号 平成20年度兵庫県太子町墓園事業特別会計補正予算（第2号）
- 15 議案第7号 平成20年度兵庫県太子町下水道事業特別会計補正予算（第3号）
- 16 議案第8号 平成20年度兵庫県太子町前処理場事業特別会計補正予算（第3号）
- 17 議案第9号 糸井・矢田部地内客土工事委託変更契約の締結について

本日の会議に付した事件

- 1 議案第22号 平成21年度兵庫県太子町国民健康保険特別会計予算
- 2 議案第23号 平成21年度兵庫県太子町介護保険特別会計予算
- 3 議案第24号 平成21年度兵庫県太子町老人保健特別会計予算
- 4 議案第25号 平成21年度兵庫県太子町後期高齢者医療特別会計予算
- 5 議案第26号 平成21年度兵庫県太子町墓園事業特別会計予算
- 6 議案第27号 平成21年度兵庫県太子町下水道事業特別会計予算
- 7 議案第28号 平成21年度兵庫県太子町前処理場事業特別会計予算
- 8 議案第29号 平成21年度兵庫県太子町水道事業会計予算
- 9 議案第1号 平成20年度兵庫県太子町一般会計補正予算（第4号）
- 10 議案第2号 平成20年度兵庫県太子町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）
- 11 議案第3号 平成20年度兵庫県太子町介護保険特別会計補正予算（第3号）
- 12 議案第4号 平成20年度兵庫県太子町老人保健特別会計補正予算（第3号）
- 13 議案第5号 平成20年度兵庫県太子町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
- 14 議案第6号 平成20年度兵庫県太子町墓園事業特別会計補正予算（第2号）
- 15 議案第7号 平成20年度兵庫県太子町下水道事業特別会計補正予算（第3号）
- 16 議案第8号 平成20年度兵庫県太子町前処理場事業特別会計補正予算（第3号）
- 17 議案第9号 糸井・矢田部地内客土工事委託変更契約の締結について

会議に出席した議員

1番	井川芳昭	2番	清原良典
3番	中島貞次	4番	服部千秋

5番 長谷川 原 司
7番 中 井 政 喜
9番 花 畑 奈知子
11番 熊 谷 直 行
13番 村 田 興 亞
15番 橋 本 恭 子

6番 井 村 淳 子
8番 嶋 澤 達 也
10番 佐 野 芳 彦
12番 上 田 富 夫
14番 桜 井 公 晴
16番 北 川 嘉 明

会議に欠席した議員

な し

会議に出席した事務局職員

局 長 山 本 修 三
書 記 肥 塚 馨

書 記 木 村 和 義

説明のため出席した者の職氏名

町 長 首 藤 正 弘
教 育 長 圓 尾 哲 一
生活福祉部長 丸 尾 満
教 育 次 長 塚 原 二 良

副 町 長 八 幡 儀 則
総 務 部 長 佐 々 木 正 人
経 済 建 設 部 長 富 岡 慎 一
財 政 課 長 香 田 大 然

(開議 午前9時59分)

議長(北川嘉明) 平成21年第1回太子町議会定例会第5日目におそろいでご出席いただき、ありがとうございます。

ただいまの出席議員は16名です。定足数に達していますので、ただいまから平成21年第1回太子町議会定例会を再開します。

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手許に配りましたとおりです。

これから日程に入ります。

~~~~~

日程第1 議案第22号 平成21年度
兵庫県太子町国民健康保険特別
会計予算

議長(北川嘉明) 日程第1、議案第22号平成21年度兵庫県太子町国民健康保険特別会計予算を議題とします。

本案については、2月26日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

全般について質疑を行います。

質疑はありませんか。

桜井公晴議員。

桜井公晴議員 国保の予算につきまして

は、本年度医療分の保険税、所得割を現行の5.3から6.0に引き上げをすると、こういうこれを根拠にした予算であります。これは申し上げておきますが、国庫負担が45%から今日では34%に引き下げられているために保険者である市町村は国保の運営が厳しくなって、それを加入者に負担させる、こういうことに問題があると思います。

この結果、本町の会計でも滞納が増え、毎月の所管事務調査報告でも明らかになっておりますように、1月末における収納状況は、累計で現年分の予算額は7億円余りですが、調定額は7億8,780万7,700円と、収入済額が5億5,956万4,115円、収入未済が2億2,824万3,585円と、現状は71%であります。また、滞納分は、予算額で3,560万円、調定額では2億1,646万5,850円、収入済額が3,499万3,873円と、未済額というのは1億8,147万1,977円、実質的には16.2%という状況です。今後この収納率が上がるとは思いますが、今後の見通しとして説明を求めたい。

また、税金を引き上げるに当たりましては、収納率を88%、12%は収納できないものとして計算をしております。歳出に際して過大な収納を見込まない姿勢で、苦しい中でも

納めている者の負担で会計を維持するのではなくて、負担が大きくて納められない加入者には、その事情を確認した上で減免等により対応して、未収分をその他一般会計で支援すると。こういうことが大切かと思いますが、いかがか。

また、もちろん負担能力がありながら滞納する者に対しては当然厳しく対処する必要があります。そこで、少なくとも収納率を95%にすれば今回の税を引き上げる必要はない、このように考えます。いかがですか。

また、滞納分につきましても、先ほど申し上げましたように、前年度予算では3,560万円に對しまして今年度は3,790万円として、230万円を引き上げているわけです。しかし、実質滞納額と調定額からいたしますれば、収税努力によって今回の税負担を引き上げずとも済むと、このようにも考えます。この点もいかがか。

それから、昨年度から特定健診の受診率向上に努めるということになっておりますが、これへの取り組みについて説明を求めておきたいと思っております。

やはり医療費を抑制して、健康で長生きしていただくためにも早期発見、早期治療を根づかせる、このことが大切かと思っております。人間ドックの利用促進とか町民健診の受診率拡大、拡充が不可欠であります。一般施策とあわせての取り組みについても説明を求めます。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） まず、滞納、未収の今後の見通しでございますが、先ほど来桜井議員さんのほうからパーセンテージもお示しをいただいたんですが、今後も若干の数字の上昇というのは当然あるわけでございますけれども、これまでと大きく変動するという要素はないように思っております。

それから、払いたくても払えない状況があるということで、かなり収税の努力をしますが、そういった事情がおありの方について未収に上がらざるを得ない、その分について一

般会計からの繰り入れで処置すべきだというご意見でございますけれども、もう端的に申し上げまして、そういった財政運営上なかなか一般会計で補てんをするということとはできないと思っております。

それと、収納率また収税をもっと図って、例えば引き上げ額に見合うのであれば収納率が95%という、逆算しますとそういうことになるんですけども、そういったことでの収税を強化をして、今回の引き上げについては引き上げしなくてもいいんではないかというお尋ねでございますけれども、計算上はそういうことになりましたが、実質納めていただくのが大体88、89%ということでございますので、そういった収納率を95%に設定をしての保険税の引き出し方というのは財政運営上から考えてもできないということでございます。

それから、特定健診への取り組みでございますが、平成20年度、19年度でヘルスアップである程度の予行演習的なことを行ったんですが、平成20年度で見ますと、当初受診目標を掲げておりました、19.5%の数字を掲げておりましたが、この平成20年度、まだ最終閉めはしておりませんが、大体見込みとしまして受診率で20.7%ぐらいになるのではないかなあとということで、数字的には目標を上回るわけですけれども、保健指導につきましても実施の目標を40%と置いておりましたんですが、見込みとしまして大体70%を超える保健指導が行われるということでございます。

一般の健診も含めましての取り組みでございますけれども、本会議でも申し上げましたように、この健康の保持というのは非常にどの町民の皆さんにも共通で目標とすべき事柄でございますので、その予防的な第一歩であります健診受診というのは非常に重点を置かれております。

取り組みとしましては、なかなか初年度やっぱり予期しないこともあり、いろいろ煩雑な面がございましたんですが、この初年度を

終えまして、次年度以降これからどんどん目標値が上がらざるを得ない、その中での取り組みでございますから、本当に決め手というのはなかなかないように思います。先の本会議で申しましたように、今実施している方法についてもやはり検討をすべきことかなあと。受診しやすいような日程等の考え方とかをきちっと検討しなければならないというふうに思っておりますのでございます。

以上でございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありますか。

桜井議員。

桜井公晴議員 特に私がこだわって言うておるのは、先ほども滞納のほうはまだちょっと答弁は出ておりませんが、調定額からいたしますと収税努力によってさらに収納可能なこともあると思うんですが、もともと税負担に耐えられないような状況の税を課しておいて滞納があって、実際には12%ほどが収納できないと、はなからそういう予定を組むこと、このこと自体が問題だと思えます。100%ということは期待できないにしても、それに近い数字になっていくような課税であり収納であると、これは当たり前の話なんです。そういうことがなぜ今言いましたようなことになるのか。12%を収納しない、そういうことを最初からやっていくようなことではいけないと思いますし、目標を設定し、なお努力しても収納できない場合の対処としては当然一般会計支援ということも視野に入れないといけないと思うんですね。そういう面から、収納率の設定というのは、これは固定のものではなくて、各保険者によってまちまちであります。そういう点からいたしますとも本町の設定の仕方というのが問題だと思います。そういうことに対する取り組みをあいまいにすることはできないわけで、やはり税の引き上げにまつわるようなことでありますから収納率は大问题であると。それらのことができない場合は一般会計も支援をするということが大事かと思うんです。

それから、税に対して、やっぱり事情があって納められない、今年度から解雇等に、また整理等によって収入がなくなったり減ったりする人たちに対しては一定の減免を行うと、こういう制度をつくるわけですが、これらについてはほかの自治体でも相当前からやっております、特別の事情ということで減免したりしているわけですね。そういうことをしながら収納率を全体として高める努力というのがあってしかるべきと、こういうこと思うんです。ここの設定は余りにも無責任過ぎると、このように思うんです。それらのものについては一般が補てんをすると、こういう考え方が必要かと思えますのと、実質滞納と調定ということで言いましたが、先ほども昨年度と比べて予算額上は滞納について230万円は増えてるけれども、調定額としては多分今年度も2億円を超えると、いわゆる滞納分の調定額は2億円を超えている中での3,790万円の予算ですからね。こういうことについてもしっかりと整理をして、これについても一定収入、3,000万円余りの税収で増を見込んどるわけですから、3,000万円余りのことは必ずこういうところで補完ができると、こういうふうにも思うんです。そういうことを否定する要素があれば説明を求めたいと思います。

それから、やはり医療費全体としてを抑制するという必要があるわけですし、保険者から見ればそうやし、また同時に加入者、住民にとっても健康で長生きをできるような形になるのが一番望ましいわけで、早期発見、早期治療で高額医療にならないようにしていくということ言いましたが、先ほども答弁ではいろいろ、受けやすい、受診しやすい条件をも考えていかないといけないとありますが、ドックにしても一般、それから国保それぞれ利用できるわけですし、これらの利用促進についての基本的な考えがあったり、また同時に、私は何回も言いますが、一番身近で、いつでも受けやすいところで、本町のメニューに従って健診が受けられる、こ

ういう道も開いていくこと、そういうことがひいては早期発見、早期治療につながるわけですから、これらのことについても検討をしないと一言いながら一向に前進していないと思うので、さらに道を開くべきだと思うんですが、いかがですか。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） まず、収納対策でございます。計算上は桜井議員さんおっしゃることになるわけですが、やはりこの税収につきましては、そういった高い設定というのは努力はしなければなりません、数字的にそれを計上するというのはなかなか現実的にはできないし、またそういったことで一般会計からの未収を補てんをするといったことを冒頭から予定をするというのはなかなか財政運営上でできかねます。

それから、特定健診の関係でございますが、利用促進につきましてはいろいろこれまでもご意見を受けまして検討し、特に今おっしゃいました、どこでもいつでも受けられる体制ということでございますが、県下状況を見ましても、医師会との調整もございまして、なかなかそういった意味では前進のあれが少ないわけですが、今度21年度につきましては、たつの市・揖保郡医師会のほうでがん検診の個別検診を予定をいたしておるところでございます、本当に徐々ではございますけれども、方向性としましてはそういう方向に向いておるわけでございます。ただ、それぞれの医師会さんとの話というのは目に見えた形での前進がなかなか難しい面がございまして、徐々ということでございます。

以上でございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、これで質疑を終わります。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第22号は、会議規則第39条の規定によって、3日目

にお配りしました議案付託表のとおり福祉文教常任委員会に付託することにしたいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 異議なしと認めます。したがって、議案第22号は福祉文教常任委員会に付託することに決定しました。

~~~~~

日程第2 議案第23号 平成21年度
兵庫県太子町介護保険特別会
計予算

議長（北川嘉明） 日程第2、議案第23号平成21年度兵庫県太子町介護保険特別会計予算を議題とします。

本案については、2月26日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

全般について質疑を行います。

質疑はありませんか。

嶋澤達也議員。

嶋澤達也議員 介護保険のことなんです、もう少し、今さっき桜井議員とのやりとりを聞いておりました中でも繰越金というのは相当年々増えてるような状況で、ただあなたの所得があるからこだけ払いなさいというのが来ました、これね、現実、私65歳になって。そういうの、介護保険を払わなあかん年になったかな思てびっくりしとんですけれど、見ましたら、あなたの所得はこだけあるからこだけ払いなさいと。それは国の法律とかいろいろなことわかりますけれど、私の場合2月、3月だけ、2月9日が誕生日ですので、もう早速3月に納付書が参っております。これは払わなあかんのやなと思て、あしたまでか、納付期限があるんですね。それはわかるんですけど、1万円何ぼやったか、二千何ぼやったかな、2カ月でね。月6,000円ですわ、ざっとね。6,000円強ですね。というのは、これはもちろん払う払わんというようなこと言うんじゃなしに、今後また2カ月に1度納付書が送ってくるんですね。ということになったら、その1万円何ぼとい

うのは、もうもっと金額増えますからね、次の来的时候。というのは、私が言いたいの、もう少し払いやすい方法はないんだろうかと思うんやね。私の例を今言いましたけれど、私でもやっぱり1回に2万円とか3万円というふうな納付書が来た場合、やっぱり払うのに払わなあかんのやけど払いづらいと。自分の財布もいろいろ家の状況を見ても、一度に大きな金額なりますね。そういうことで、もう本当に国保もそうですけれど、この方法、何とか滞納のないように努力はもちろん住民としてするべきだと思いますけれど、やはり今の現実、現状を見れば、やはり滞納が増えてるということは払いづらい。払いづらいというイコール払いにくいということもあるかと思うんですよ。だから、もう少し払う方法を、気軽に納めるような方法があれば少しでも滞納が減るんじゃないかというふうに思うわけです。その点を一度考えてみられたら滞納は少しでも少なくなるんじゃないかと、住民として感ずるわけです。やはり何万円を何ぼ払いなさいという納付書来たら、もちろんその払うのは当たり前ですよ。ほんで、滞納すれば延滞金やらどんどん増えてきますやん。すごい数字で増えてきますからね。そやから、本来の延滞金そのものは、それもその法律で決まってるということはわかりますよ。だけれど、払いたくても払えない、払わなんだら延滞金から何かでどんどん増えてきますからね。だから、その辺をもう一度ちょっと、もっと払いやすい方法を考えてみる。予算を組むときに繰越金を何とか減らすのには何とか納税してもらいやすい方法というのも考慮されてるのかなあと、それを一度、長々としゃべりましたけど、お尋ねします。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 払いやすい環境と申しますか方法を検討しとるんかということでございますが、これも65歳になりましたらすぐさま納めていただくということなるんですが、もう大体の方が特別徴収をしてお

ります。年金のほうから特別徴収をしておりますので、収納率というのも高い率でございます。ただ、滞納がゼロかと言えばゼロではございません。先の総括の質疑の中でも滞納の状況をご報告申し上げたんですが、それらの方を中心にもうちょっと払いやすい環境があるんじゃないかという今嶋澤議員さんのご意見でございますが、まあまあ制度的にはそういったことで特別徴収を中心として、その間普通徴収の方法もございまして、それについて払いやすい環境ということでは我々もそれ以外に環境的に整備する部分があるんかどうかというのは一遍考えてみたいと思っておりますが、なかなか制度的にもう決まった方式でございますので、それが可能かどうか、ちょっと一度検討したいというふうに思います。

以上です。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

嶋澤議員。

嶋澤達也議員 部長の立場では、それはそのとおり、制度というもんありますからね。ただ、住民としては、その今おっしゃってました特別徴収、もうこれについては納得されてる方、やはりよほど余裕のある方だと思いますよ。また天引きされとんがなというようなことで非常に、払うのは住民の務めだということは重々承知ですけれど、やっぱり年金から天引きされるというのなかなか住民感情としては、納得はせなあかんのやけど素直に納得できないという現状は、現実はあると思うんですよ。その辺のことはやっぱり行政として、制度だから仕方がないというようなことじゃなしに、何とか納得をして、喜んでまでとは言いませんけど、やはり保険そのものは国民また住民の務めでありまして、保険制度そのものは、何とかそういう、喜んでとは言わんけど、まあまあ納めとかなあかかなと、いつかは我が身だと、そのための納税だという理解がちょっと最近薄れとんちゃうかと思うんやけど、その点についていかがですか。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） この介護保険につきましては、やはり始まって大分たつんですが、さらに制度の周知ということが常々言われております。特に地域包括支援センターのほうではやはり高齢者の訪問を行いまして、その際には介護保険の制度云々の話もさせていただいております。なかなか全員の方にご納得をとということでございますけれども、やはり説明を申し上げて、また未納の方への徴収の際にも介護保険の制度からの話を職員はやっておるといふ状況でございます。何も年数がたってるからもう説明も不必要だろうということもございませんで、これはもう日々言い続けなければならぬというふうに思っております。

以上でございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありますか。

上田富夫議員。

上田富夫議員 この介護保険についてはもう制度始まって10年ですか、来とるわけなんですけれども、何か当初はバラ色みたいな感じで大いに宣伝されたんですけれども、10年たってみて考えてみますと、料金、第一にその保険料そのものが何ぼになったと思っておりますか、今現在。全然違いますわな。それと、その間に物価それだけ上がったかというたら、上がってしまへんな。もう一点は、サービス、ようになりましたか。10年間、徐々に、ずっと右肩上がりですサービスようになってきましたか。下がってますでしょ、サービスは。

例えば具体的に言いますと、88歳の夫を84歳の妻が介護しとるわけなんですわ。どっちも、もう当然足が悪いとか何とかというて医者通いなんですわ。従来は、例えば買い物にも、なかなか不自由なもんやから、ちょっとスーパーかそこのファミリーマートみたいなところまで約2キロあるわけなんですけど、一番近い店が。そこへはヘルパーさんが来られたときに、ちょっとだけ済まんけど言うて自分とこの自転車出して乗って買い物

に行ってもらいよったけども、最近それはしてくれないと。なぜかという、それは違反になりますと、買い物ということは。ほで、もうでけへんということでやめてしもた。庭が、小さい庭やけども草ぼうぼうで草引きもでけへんと、しゃがむことができないのでね。それちょっと草引いてもらえへんやろか言うたら、いや、それも違反やと言うて、ほんまの本当の身体介護とか、それから洗濯とかに限られてしまつて、ほかのことは全部やらないかんようになったというようなことで、何か制度自体がだんだん使い勝手の悪い、そういう制度に変わりつつあるような。だから、例えば1時間なら1時間の間で主たることは作業はしていただくと、ちょっとその間に暇、例えば5分なら5分、10分なら10分、間があくようやったら、ほかのことをちょっと置いといて、そういう本当に自分の生活、例えば買い物というのは基本的には自分の生命にかかわることですから、ですから行かんわけにいかんですわ。どないして行きよるかというたら、やむを得んからタクシーで行くと。そのタクシー代、タクシーと、それから病院、その主人が病院へ行くと、それなら自分もついていくと、自分もまた病院に行くということだ。この間ちょっとタクシーのチケット見せてもらったんやけども、2カ月間で5万4,000円ほどかかるとるわけですわ。だから、そういうことに僕はお金を使うということがどうなんかなと。だから、保険の金の使い道の中に、ほんまに生きた金がどれくらい使われよんかということも僕は検証してほしいと思うんですよ。ほいで、88歳の人を84歳が介護すること自体がどだい無理と違うかと思うわけなんやけども、それもやっぱり今部長が言われたように制度やからしょうがないということなんかね。

それから、介護保険を始めたときには僕は、もっと負担は多くなるけども皆さん楽になりますよと。一方では確かに楽になった部分もいっぱいありますよ。何でこんな人を介護保険でやらないかんのやというて、元気で

ぴんぴんしとる人が施設からバスが来るからというんでデイサービス、1週間に4日ぐらい行きよっての人あるわ。見とったらぴんぴんしとるな、元気そうや、もう。そやから、あんな人が何で介護保険であれあんなとこ行かなんのかなと思うし、一方では非常に、もうほんまに大変なことをされとんやけども、あの辺でも制度というの是一片そやから、そのほんまに制度だけでええのか、ケアマネジャーも含めて、行政も含めて、実態を調べて、やっぱり実態に即応した保険の、この介護保険のあり方というのを考え直していただきたいと思うんですけども、どんなもんでしょうね、そのことについては。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 実態はどうかということでございますけれども、かねてから、特に平成18年、現在の第3期の介護保険の改定の際に、今言われます部分が若干の改正がございまして、時間の問題とかが言われてまいりました。これもなかなか制度ということで一言で済ますあれではないんですが、やはり国のほうでは逐一そういった状況に対処するために専門家によりますところの検討チームが設けられまして、このたびの第4期の計画の策定の際にもそういう改正部分が入っております。なかなか隅々までといいますと、やはり例外的な部分も確かにあるようございまして、そういった部分が町民の皆さんの声としてケアマネジャー中心に入っておるようございまして。本町におきましては、ケアマネジャーの集まりというんですか、定例会を設けておりまして、やっぱり諸問題等について協議を行っておるところでございます。制度のはざまという部分もあるようには思うんですけども、今上田議員さんから言われましたとこにつきましては、的確にすぐさま響くようにというところはなかなかいかないようございまして、その辺ご理解を賜りたいと存じます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありますか。

上田議員。

上田富夫議員 この間、新聞で衝撃的なことが出てましたけど、高齢者のいわゆる認知症、主人が認知症で、で、奥さんも、介護しよったらそのうち奥さんも認知症になって、奥さんが主人を殺したと。これ悲惨でっせ。ただ、年齢的にまだ80、両方とも80超してないでしょ。僕も75なんですよ。人生これだけ生きてくるといろんなことがわかってくるんやね、おもしろいことに。60ぐらいの人には見えへんことが結構見えてくるんですわ。特に80超えてくると体力、気力、知力、完全にダウンしますな、もう間違いなしに。どんな人でも、例えば芸術家で、その専門分野の、絵とか書とか彫刻とか、その分野についてはなるほど80、90の人でも立派な人ありますよね。だけど、ほかは衰えますね。だから、80の人が80の人を介護するということは、あなた方、寝たきりの人を一遍10日間介護してみたらわかるわ。たったの10日間ですよ。一年、二年言いませんわ。どんだけ大変で、どんだけつらいかということが。そのために僕は介護保険というものが導入されて、それを側面から支えていくという制度と理解しとったんやけども、もう80の人が80の人を支えるところには僕はもうある種無制限というてもええぐらいのやっぱり援助すべきやと思うんですよ。

何だかんだというてヘルパーが来て、聞き取り調査してチェックしよりますわ。そしたら、もう80代の人はいわゆる戦前の人ですから物すごいプライドあるわけですわな。だから、あなた一人でこんなことができますか言うたら、ああ、できますというて言うわけや。何ができるんや。ふだんやったら全然できてへんわけや。ヘルパー、うんっと思う、あ、小首かしげながらもう一遍聞つきよるわ。ほいでも、うん、それぐらいできるんやというて言よんのや。ほんなら、もうそれで丸ですわ、この人はこれができるということで。そんな聞き取り調査は全くナンセンスなんやわ。だから見とったらわかるわ、できるかで

けへんかね。だから、もう88もたって、そんなもん一人であんた外で買い物できますか言うたら、ああ、それぐらいやりませ言うて、ふんふんというて言うとするわけや。何のことない、家の表へ出ることすら、階段2段ほど段があったらそこようおりへんのやから。でも、その人にはプライドがあるわけすわ。わしは人の助けにはならん、わしは自分でやるんやという。今の人と全然その考え方違うからね。今の人やったら、もう何でもふんふん言うといいたらもうもんもらえるんやさかい得やというような感じやけど、もう80過ぎた人はそうやないんですわ。自分で、もう人の助けからんと自分らでやるんやという、そういう意識が物すごくあるから、その辺のギャップを僕は聞いて、それは僕はこれが日本人や思いまっせ。今のやつは腑抜けのやつちゃ。もう得やったら何でもええわで、うつむいて、よそ向いとったって、得することやったらへえへえ言うとするちゅうな、そんな日本人に成り下がってもうとんのや。だけど、戦前の人とは違いますよ。そこんところが全然そのケアマネジャーにしたってわかってないな、その人の心というんは。そんなやつが、ああ、僕はケアマネジャーで、なるほど、物すごい聞いてたらすごく親切なんですわ、言葉遣いから何から全部親切なんやけど、何にもわかってない、人間の心というもんが。マニュアルどおりにやりよるだけのことなんや。だから、その辺は行政がもう少し僕は実態を調べて、一方ケアマネジャーはなるほど実態知るとるかわからんけども、しかしやっぱりあの人の、僕から言わすとしょせん自分の生活の糧というか金もうけ。だから、そうでないところの、一方でそうでないところから見るというのは僕は行政が統計的に調べて、80なら80以上で老老介護しようような人は特に気をつけて目を向けておくというような、そういうのが僕は行政の仕事やと思うんですけれども、そんなこと考えられませんか。太子町に、ほんな老老介護しよう組というのはわかりますか、把握してます

か。お尋ねします。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 老老介護の実態把握はどうかということですが、いま少し手許にはございませんが、やはり介護認定を行う際に、そういった家庭の状況等も当然わかるわけでございます。

今言われますところの80を超えるお二人で、一方がもう介護をされるという状況も当然あるわけでございますが、なかなか調査自体がマニュアルどおりであろうというご指摘でございますけれども、今般の改正によりましてやはり調査表の中に特記事項でのそういった細かな部分を記することということで、それを審査会のほうで専門的な見地からそれを加味をしていくという方向に変わっておりますので、マニュアルどおりと言われましたらまあそうかもわかりませんが、やはりできるだけ状況等を把握した上での調査表に今回の改正でそちらのほうに移るだろうというふうに思っております。

老老介護につきましては、実数はちょっと私把握をいたしておりませんが、介護認定の際にはやはり家族の状況等がはっきりしますので、担当課のほうではつかんでおるといふふうに思っております。

以上です。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

上田議員。

上田富夫議員 自殺者がここ10年間3万人を超えたという、ずっと出てきますわね。いや、これ国全体のことですよ。僕は国はやっぱりすごいな思うのは、これ各都道府県で起きとうわけやけども、でも全部把握しとるやん、何ぼやというて。ほんで、今年の1月の自殺者何ぼというてびゅっと出てたわね。年間しか発表せえへんけど、1月余りにも自殺者が減らんということで発表してましたやん。だから、あれ全国ですよ。太子町ですやんか。町がそんなもん、老老介護何人おるかぐらいなこと、これ介護保険やって10年なる

のに、いや、担当は知っとるかかわからへんけど私はわかりまへん言うて、ちょっとそれないんと違うか思うんやけど。そやさかい、わかりませんというのはそのとおりやる思うんやけども、それだけ意識がないということなんやね。だから、隣の家の子供何人おるんや言うたら、それ知らんわ言うけど、自分とこの子供は何人おるんやというたらわかるでしょう、何人やというて。自分とこの孫何人言うたらわかるでしょう。隣の家の孫何人言うたらわからんでしょう。何やというたら、関心がないからや。だから、今太子町で80以上の老老の人の介護をしよる人が何ぼや言うてわからん言うのは、そら関心がないからや。関心があったらわかっとうはずや。だから、関心持ってほしいんや。

それともう一つは、最後に言うときますけれども、民生委員の人にやっぱりその辺は調査というか、そういうことの。何も公にせんなんことないですよ、だれとだれがということ。でも、調査して、問題ありませんかと、あつたら報告してくださいねぐらいなことはやっぱり絶えずふだんから言うていく必要があると思うんですけども。そら、介護保険、これ徴収で取るんでっせ、金を。任意で納めてくれというんなら言いませんよ。強制ですよ。強制で巻き上げるんで、金を。巻き上げた金、使い方、使いよん、どない使いよんや知らんちゆうような、そんなふざけた話ないんやから。だから、あんたぐずぐず言うんやつたらもう介護保険やめときなはれと言うんやつたら、それはそれでええんですわ。そうはいかんのでしょ。なら、やっぱり強制的に強権を持って徴収したもんはやっぱりそれなりに、任意で集まってつたお金以上に大事に使って、きちっと透明性を持った使い道を皆に明らかにするというのは当たり前のことや思うんやけどね。こういうことをやっぱりきちっとやってもらえますかね。いかがですか。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 当然、決まり

に基づいて集めました保険料でございますので、その対価でありますサービスにつきましては透明性といえますか、当然数字にも上がってまいります。今上田議員さんがおっしゃいますように、これはもう介護に限らず、どれも原則的な部分かというふうに思っております。

以上です。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

桜井公晴議員。

桜井公晴議員 今上田議員もいろいろおっしゃっておいりましたけど、この認定を受けるについても病院の中でも同じことが起こるねん、高齢者は。前にも私も言いましたし、今も上田さんおっしゃっておいりましたけど、とにかく調査の段階では頑張るんですわ、年寄り。それはまあそれが生き方なんでね。今の戦前とかという方々の生き方だと思いますけど、そういう中で認定されたら後はそのままという形になるわけですから、見直しまではそのままということになるんですから、やっぱりきちっと見るということが大事だと思うんです。これはもう何回も言っても同じ、そういう調査を真剣にやらないといけないと思うんですね。だから、結局保険あって介護なしと、こういうような形になりつつあるというのは、これではないかと思うんですね。

ちょっと具体のこともあわせて聞いておきたいと思いますが、今年度の保険給付で介護諸費に計上している諸施策につきまして、対象と、どれだけの介護がこれで受けられるようになるか。いわゆる、私が何回も言っておりますように悪くなっていると。認定審査も結局は機械的に行うということで、先ほど答弁があった、特記事項なんかをきちっとやっていくような形にはならない。今まで以上にコンピューターで整理をして、それが基本的なデータとなって審査会にかけられると。もう非人間的な形だと思うんですね。

そういう中で、介護サービス費は11億9,000万円で、居宅、施設等それぞれありま

す。それから、予防サービス費についても1億円余りで、介護予防サービスで8,300万円余りとか、こういうふうな予算が計上されておるんですが、これらがどういうふうに、どれだけの対象にどれだけのサービスが提供できるんかと。今回の中で何がどう改善されるかということを説明を求めたいと思います。高額介護サービス、特定入所サービスも同様であります。

それから、介護サービス事業費でも1,646万8,000円上がっておるわけですが、この委託料では介護予防ケアプラン作成業務委託、どれだけの介護を必要とし、どういう内容でこれが上がってきているかということも含めて説明を求めたい。

それから、地域支援事業、これは地域が支え合う形をとるということでいろいろやってきているわけですが、実態が伴っていないのも現実かと思いますが、この事業で1,489万9,000円を計上して、委託料でやはり1,449万2,000円を計上しているわけですがけれども、これらのことでどれだけ介護が支援されたり予防が前進するかと。こういうことをきちっと見てないと、ほんまに今言われたように強制的に巻き上げた金をどう使うかということがはっきりしないと、こう思うんですね。私は、やはりこの制度は保険あって介護なしにならないように、またしないようにすることが行政の責任やと思うんです。これは制度の責任ではありませんから、当然国にも物申す。そして、行政の責任としても、これを運営しているわけですから、しっかり責任を果たすということが大事かと思いますが、その点。

専門家が今回の制度改正の中でのことでこういうことを言ってるわけですね。結局、要介護調査の基準変更計画が認定の軽度化に拍車をかけると。内容的には、重度の寝たきりの人について言いますと、移動、移乗の項目を自立、介助なしと判断すると。もうおかしいですよ。要介護認定の際の聞き取り調査の基準を変更する計画ですから、利用者の生活に重大な影響を与えます。当然だと思いま

す。マニュアル等によりますと、聞き取り調査の項目が大幅に減らされると。2次判定を行う認定審査会の裁量と、今ちょっと部長も説明してましたけど、裁量権も弱められると言ってるんです。また、コンピューターによります1次判定を変更しにくくなると。こうじゃないんですか、実質的には。だから、こういう専門家がいろいろ心配していることは当然あり得ることだと思いますが、結局はサービス利用者の生活実態、今もいろいろおっしゃってましたけども、を反映しない、ことになります。軽度の人が増えたと、こういうことを危惧すると言われていました。その心配はないんですな。

それから、結局認定が軽くなりますとサービスの利用限度額も、また施設への報酬も減額される仕組みですからね、軽くなったら。だから、利用者の生活と事業所の経営に対しても深刻になると。これも事実だと思いますが、そうではありませんか。

それから、私は安心して利用ができ安心して働けるようにやはり制度を改善しないとイケない。これ、当たり前だと思うんです。同時に、制度の欠陥があるわけですから、これは一般施策としても町独自でも対応できるようにすると。そうすることによって太子町の介護の必要な人たちに対する支援も大きくなると思うんです。そういうことについて片一方で考えていく。これ、介護保険の発足時には町長はどない言ったかといいますと、進みながら直したらよろしいかいと、ここでこういう説明したんですよ、その当時の町長はね。だから、歩きながら直して悪くなつたんです、これは。それではあかんということでもありますから、それを補完するだけの施策を町でもやるべきだと思うんです。

ほいで、具体的には、保険料、利用料を減免して、結局経済的理由で介護が受けられない人を一つはなくすと。だから、耐えられない人には負担を求めないとか、保険料などについては応能負担にするとか。

それから、介護の取り上げをやらないと。

現場の判断を基本的に尊重しないとケアマネジャーがたくさんやめていってるという現実、あちこちでね。そういうこと、それから介護労働者が勤まらないという現実、こういうことも改善をしないといけないわけですから、こういう点でもはっきりさせておかないといけないんじゃないかと思うんです。結局、介護取り上げとか保険あって介護なしにしないと。この取り組みは行政がやらんとあかんわけです。

それから、いわゆる事業者のほうから見ても労働条件の改善、先にも3%、5%ということ言いましたけれども、人材不足の解消とか雇用の創出を図るということでないとは成り立っていかないことでもあると。この点についてもはっきりさせる必要があるし、これらを支援する施策が必要かと思えます。その点どうかと。

やはり何回も言いますが、見直しというんならば、必要な介護について、だれもがいつでも相談ができて利用できる制度にすべきだと思います。また、その制度の欠陥を補完するための独自施策があわせて必要だと思います。そういう点について説明を求めます。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） まず、この第4期の初年度でございます21年度のサービスの方向性のお尋ねがあったかと思えます。当然、第4期の計画では介護保険サービスの充実といったことが上がっておりまして、特に要支援1、要支援2、介護1といった、俗に言います軽度の認定の方でございますが、これらの方につきましてはやはり生活の自立度が比較的高くて、潜在能力というのが残っておる方々でございますので、やはり早いうちからの予防とリハビリを行うといったことが必要ということで、これまで第3期もそうでしたが、やはり介護予防を重視した体制づくりへ持っていくということでございます。そのサービス内容も、そういったことでの転換をしていくという内容の計画となっております。特に訪問介護、それから通所介護、そ

れから短期入所生活介護といったところへ重点といたしますか、予算的にもそういったことへの配分というのが多くなっておるように思います。

それから、地域支援事業の関係でございますが、これらも1,400万円余りの予算の計上ということでございますけれども、これらも予防といったところでの委託料が占めておりますが、これらも先ほど申しましたように、やはり早期的な取り組みということで充実をさせていくということでございます。

それから、今回の第4期への改正に際しまして認定が軽くなる傾向に出るのではないかとございまして、一部そういった声があるということも承知をいたしております。ただ、やはり実態に近い形での認定という、一言で申しましたらそういうことでございますので、実際4月以降どういうふうになっていくか、私はそういう方向で、国が言っている方向で進むというふうに思っておりますけれども、またそれぞれの実施をする中で把握をしたいというふうに思っております。

それから、制度の欠陥についてどういった対処といたしますか、行政として独自施策を考えなければならないのではないかとございまして、これももうこれまでもお答えしたかとも思えます。町のほうで独自に、この制度的に見まして独自にできるといったところがなかなか少ないといたしますが、ほとんどが法令等によって決められておりますので、そういったところはなかなか難しい面がございます。

それから、介護従事者への改善についてでございますが、これも今般の制度改正によりまして3%というところの介護報酬がアップをされるということでございますけれども、これらについてやはり現場での従事者の確保を初めとした諸問題について太子町としてどうかということでございまして、なかなかこれも直接的にどういったことができにくうございます。こういった制度全般での介護報酬の見直し、またそれに見合う従事者への待

遇改善というところで、これも改善が図られるということでございますから、やはりその状況等も見てみたいというふうに思います。

以上でございます。

議長（北川嘉明） 桜井議員。

桜井公晴議員 ちょっと私もいろいろ十分に承知してない部分はあるかもわかりませんが、いろいろ専門家の話など聞いてみますと、結局認定調査員テキストの主な変更点、こういうのはマニュアルは出されておると。例えば項目で移動、移乗という点では、利用者の状態は、移動、移乗の機会がない重度の寝たきりの状態で、今ですと全介助なんです、新しくは自立、介助なしになるんですよ、このマニュアル。それから、食事の摂取でも、中心静脈栄養、高カロリーの点滴のみで口から食べていない、これも全介助なんです、今は、当然。だけど、新しいテキストだと自立、介助なし。おかしいんですよ。それから、麻痺等の有無の項目については、調査時に手足を持ち上げることはできたが日常生活に支障があるという利用者の状態ですよ。これまでは日常生活上の支障があれば麻痺ありとするとありました。しかし、新しくなると、日常生活上の支障は評価しないと。恐ろしい話じゃないですか。それから、薬の内服項目で、現在薬の内服はないが処方された場合は重度の認知症があるため自分では内服できない場合。旧のテキストでは、能力を総合的に勘案して判断することになっていますが、これも自立、介助なしになるんです。それから、調査項目で、歯磨き等洗顔、ほいで利用者の状況というのが、本人の生活習慣で行っていないと。これまでは能力を総合的に勘案して判断をするということになっておりました。しかし、これが、これもまた新しくは自立、介助なしと、こうなるんです。こんなことになったら、そらほんまに現場主義、もっともっと現場が実態を、そらケアマネジャーがケアプランを作成するというには、1人に係って数時間おって出入りしないとわからないと思うんです、実態は、た

だ面前、一部分だけを見て、今まででもそれが問題でありましたけど、今後はさらにコンピューターに項目が減るわけですから、こういうことになってまいりますと、より一層特記事項が増えないといけないんですね。その特記事項が増えるようにしようと思たら、しっかりとこの様子を見て、そしてそれに基づくプランを立てないといけないはずなんです。そういう中で、もういわゆるケアマネジャーなんかもうしんどくて耐えられん言うてやめられる人が出てきたりするというのは、それが現実なんですから、そういう点では今度の制度はほんまに自立判断が増えるということによって先ほど答弁しているような方向にやっぱりいかないと私も本当思うんですよ。だから、こういう質疑をしようです。だから、太子町ではそういうことはさせないと、こういうふうに答弁していただければ、それで一つまた後検証したいと思うんですが、いかがでしょうか。

それから、今回予算に計上している具体にちょっと聞きましたけども、先ほど言いましたように介護サービス事業費あるいは予防サービス費、これで13億円ほどになるわけですね。さらに介護予防で早期な取り組みといいますけれども、ここでいろいろとやれる人というのは、まあまあ半分大丈夫な人だと思います。けども、一番問題なのはやっぱり家庭にこもったりいろいろしている人たちが介護保険やら医療の世話を極力ならないように、そして元気で長生きをする、それも介護保険の仕事なんですよ、実質的にはね。そういうことがひいてはこういう制度を余り使わなくても済むようにするという。それを一般施策でやっぱり補完しないとけないし、また受けやすくすると、そういうことが。そのためには、利用が増えれば増えるほど保険料が上がる仕組みということには国に対してははっきり言わないといけないし、その制度の欠陥を補完するような独自の施策が必要だろうと。それは一般施策でやる以外にないんじゃないですかと。こういうことでしつ

こく伺っとんですけど、いかがですか。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） まず、認定調査の関係でございますが、私も手許に2009年の認定調査員テキストなるものを持っておりますけれども、一言で冒頭に表記してありますのがやはり今回の見直しで、より介護現場の実態をあらわす方法として採用しておるといふようにございまして、そういった面ではやはり第1次の調査においては、これまでからかなり改良されたというふうには受け取っております。

それから、2点目の点でございますけれども、特に一般行政として補完すべきということでございますけれども、これにつきましては、なかなか具体的に形で支援的な状況というのがとりにくいということがございます。いい方法があればいいんですけども、制度を見渡した限りではなかなかとりにくいなあというふうには思っております。

以上です。

議長（北川嘉明） 桜井議員。

桜井公晴議員 いろいろ前段は国も言うんですけどよ、厚労省もね。しかし、内容を検証したらそないなると専門家が言っていると。項目は減ってるんです、全体的には。そしてまた、コンピューター上ですぐ判断できるようなことが基礎になってしまうから特記することが少なくなると。今はもう特記が条件ですし、それからじっくりと面談をし、繰り返しその資料をつくるということ。今回の改正で今私が言うたように受けにくくなったり排除をされたりするようなことがなくなると、こういうことを断言できますか。説明求めます。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 実際、やはりあるべき姿ということで、こういったそれぞれ改正が行われるわけでございます。そういった意味では、国の言った内容を見てみますと、今言われる、基本において、それをもう基本設計として掲げておるといふことでござ

いますから、断言云々としましては、やはりそれは実施しないとわかりませんが、それを基本設計に置いての制度設計をされての改正でございますので、期待をしておるといふところでございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、これで質疑を終わります。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第23号は、会議規則第39条の規定によって、3日目にお配りしました議案付託表のとおり福祉文教常任委員会に付託することにしたいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 異議なしと認めます。したがって、議案第23号は福祉文教常任委員会に付託することに決定しました。

~~~~~

日程第3 議案第24号 平成21年度
兵庫県太子町老人保健特別会
計予算

議長（北川嘉明） 日程第3、議案第24号平成21年度兵庫県太子町老人保健特別会計予算を議題とします。

本案については、2月26日の本会議で既に提案理由の説明が終わっておりますので、これから質疑を行います。

全般について質疑を行います。

質疑はありますか。

桜井公晴議員。

桜井公晴議員 私は後に議題となる後期高齢者医療制度よりもこの介護保険制度のほうが国、自治体の責任が明確になってまだましやと思うんですけども、この制度を廃止しようとしているわけですけども、この制度のふぐあいというたら何だと思えますか。ほいで、何で廃止しないといけないと思いません。説明してくれますか。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 老人保健から後期高齢者医療へと変わったというところで、なぜ廃止されなければならないかということでございますが、これももう当然医療費の増というのを背景に、またその背景にはやはり少子高齢化社会の日本の姿が写し出されるということでございまして、それまでの間やはり医療につきましては、若年層とそういった高齢者の部分について非常にふぐあいといいますか、一種不満のようなものもあったというようなことから抜本的にこの医療制度を改革するということが国民的議論の中で改正をされたということでございまして、どうしてこうされたのかということになりますと、もうそういった時代の背景を考え、また医療保険財政を考えての制度改正ということでございます。

以上です。

議長（北川嘉明） 桜井議員。

桜井公晴議員 結局は、若年者ということを含言いましたわね。これまでに老人医療費によけ金がかかると。そのために各制度、いわゆる保険ですね、各保険からの拠出をしないとイケない。もちろん国、自治体それぞれ責任負わなきゃならないと。こういうことで老人の医療費がかさむと。こういうことのために他の保険から敵対視して、今、後期高齢者医療制度をつくり、この中にもまた新たな矛盾点として、当然起こるべきして起こってるのが支援金ですね。この支援金によって、先にも私言いましたけども、皆さんも承知のことなんですけども、組合保険、組合健保が解散したり、それがもとの政管健保に移行すると、こういうこと。しかし、それも困難になると国保と、こういうふうになってくるわけですね。そういうようなことで今も対立を大きくしていつているわけですね。後期高齢者は、それに輪をかけて、使えば使うほど、後の質問もそういうことしようと思ってるんですけども、使えば使うほど保険料が上がる。負担も増えるし保険料が上がる。また、ゼロ歳から75歳までの者すべてが収入もないのに

支援と称して負担をさせられる。これがまた対立となるわけです。それが、今までの制度は、まだそういう点で言えば国と自治体と保険の責任を明確にしておいたと。だから、少なくとも制度的には問題はあるにしても老人保健制度のほうがましであった。ほいで、国が負担を後退させるということによって今度の後期高齢者医療ということになってるわけですから、その辺のところはどうですかね。ほんまに今答弁があるようなことでは、国の財政支出を減らす、もちろん自治体等の財政支出もあわせて減らすということをあめにこんなことを全体として推進をしないと、こういう現実があるわけですから、本当に今若年層との対立をさらに深めているのが後期であり、この老人保健の中でそういうことを盛んに宣伝をしてきたと、老人保健はこんだけかかりよるかかりよると言うて。それがたまたまこちらへ移行するだけのことで、これも同じことが繰り返されようと、より一層住民負担が増えていってると、こういうことがあるから困るわけですね。だから、制度のふぐあいはどこにあったんかというたら、行政の面から見ても、住民の面から見ても、後期高齢者医療のふぐあいは少なかったと思うんですけど、いかがですかね。そういう認識がなかったらおかしいんですけど、どうですか。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 負担ということに目を向けましたら、そういうことになろうかと思えます。それまで負担がなかった方への負担といった側面も出ておりますので、そういったことが言えるかとも思うんですけども、これも制度の改正に当たってはよく議論もされ、まして立法の場所で定められた法律でございまして。それを我々が実施をしていくということで、この基本的な形は変わらないわけですけども、今桜井議員さん言われる部分については、確かに負担と給付の関係上そういったことで負担が増えておるという状況でございまして。

以上です。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、これで質疑を終わります。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第24号は、会議規則第39条の規定によって、3日目にお配りしました議案付託表のとおり福祉文教常任委員会に付託することにしたいと思っております。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 異議なしと認めます。したがって、議案第24号は福祉文教常任委員会に付託することに決定しました。

~~~~~

日程第4 議案第25号 平成21年度
兵庫県太子町後期高齢者医療
特別会計予算

議長（北川嘉明） 日程第4、議案第25号平成21年度兵庫県太子町後期高齢者医療特別会計予算を議題とします。

本案については、2月26日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

全般について質疑を行います。

質疑はありませんか。

桜井公晴議員。

桜井公晴議員 先に老人保健のことで、この老人保健をやめ、新たな制度に移行するという形に今なっているわけですが、そういう中でやはりこの制度は住民及びこの対象となる75歳以上の高齢者から総批判を受けて、怒りを和らげようと政府がいたしまして、負担の先送り等の見直しをしようとしております。補正予算並びにこういう今時の予算。しかし、75歳以上を先ほども言いましたように各保険から切り離して差別医療を押しつける。また、先にも言いましたように、医者にかかればかかるほど保険料も、また一部負担も増えると、こういう最悪の高齢者いじめの制度であります。現役世代の、赤ちゃんから

先ほども言いましたような75歳未満の人たちにとっても支援金という負担を押しつける制度で、国民総じて悪い制度やと。だから、少なくとも自治体としても廃止を求めるということを声を大にして言うべきだと。議会は既にこのことの見解書を発しているわけですが、行政も歩を進めないといけない問題だと思うんですね。

そういう点の説明と、具体の点では保険料の点で現年分の1億8,917万円、これがあるわけですが、特別徴収が1億3,200万円、普通徴収が5,675万円と、こうなってるわけですが、これのそれぞれの対象と、それからこれに対することでは、えげつないのは資格証の問題等がよく問題になります。国保と違って、ここにそういうことをやってはより生命にいわゆる危険が及ぶと、こういうことになるわけですが、そういうことにならない、ペナルティーを発しない形で当然取り組まないといけないと思うんですが、その取り組みについてと説明を求めます。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 特徴と普徴の対象ということでございますが、人数比で申し上げますと、大体特徴が7割、普通徴収が3割になるかと思えます。

あと、取り組みでございますが、これらにつきましても廃止を求めるということでございますが、これなかなか行政が国のほうにということではできにくいといいますが、先ほども申しましたように、やはり立法の場で決まったことを行政が施行するということでございますので、なかなか意見書的なものについてはできないということでございます。

以上です。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

桜井議員。

桜井公晴議員 何でも行政が決まったというて、そういう意見を述べないからおかしなってくるんや、自治体がええええ言うると。先の老人保健の部分と歩を一にして国に

追隨するということが結局はこうなるわけ
です。そういうことになると国民いじめ、老人
いじめになるわけですね。そういうことを言
ってんです。そういうことがあってはならな
いという意見を述べる、求めるということが
自治体としても住民福祉の向上の立場から
取り組むべきだと私は言っただけです。

それで、保険料も7割、3割っていう人
数、具体的なこともきちっと説明しといてく
ださい。

それから、もう断じてよくないのは資格証
の問題があると思うんですけど、そういうこ
とも県連にもきちっと申し入れると。こうい
うことがなかったら命にかかわることになっ
てまいりますんでね。そういう説明も再度求
めます。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 今ちょっと人
数の表を探しよるんですが、後期高齢者二千
何人の細かな数字はちょっと今見当たりませ
ん。正確な数字については……

（桜井公晴議員「委員会か」の声あ
り）

委員会でご報告を申し上げたいと存じま
す。

それから、資格証明書の関係でございます
が、これも決まった方法でもって行うという
ことに尽きてしまうんですが、取り組みにつ
いてはそういったことでございます。

以上です。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませ
んか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、こ
れで質疑を終わります。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第25号
は、会議規則第39条の規定によって、3日目
にお配りしました議案付託表のとおり福祉文
教常任委員会に付託することにしたいと思
います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 異議なしと認めます。
したがって、議案第25号は福祉文教常任委員
会に付託することに決定しました。

~~~~~

日程第5 議案第26号 平成21年度
兵庫県太子町墓園事業特別会
計予算

議長（北川嘉明） 日程第5、議案第26号
平成21年度兵庫県太子町墓園事業特別会計予
算を議題とします。

本案については、2月26日の本会議で既に
提案理由の説明が終わっていますので、これ
から質疑を行います。

全般について質疑を行います。

質疑はありませんか。

上田富夫議員。

上田富夫議員 3月3日ですか、資料
を、この墓園の使用に対する申し込みです
か、に対する資料をいただいたんですけども、
あの中の説明は、今現在あの説明をして
おると思うんですけども、当初からあれは
変わつたらへんのかなというのが1つと、そ
れから契約した人にちょっと聞いてみたんや
けども、いや、こんなもらってないよと言
う人があるんやけども、出してますかな。た
また聞いた人が知らん言うたんかな。今か
ら6年ぐらい前に契約した人なんですけど
も、当時から変わってないんですね。それは
確認しときます。

それから、管理の件なんですけど、いわゆ
る植栽、清掃、それから門扉のあれで年間
600万円近い金が出るとるわけなんですけど
も、あれ入札によって大きく変化があるん
ですけども、これはどういうことなんでしょ
うね。植木なんかの入札で、あそこは新た
に植えたり間引いたりということ余りない
と思うんですけども、したがって余り変わら
んと思うんですけども、それが時によっては
変わるということがあるんですけども、そ
の辺はどういうことになつたのか説明をい
ただきたいと思うんですけども。

それと、あそこトイレありますね。あれ、

公衆トイレとは言いかねるんですかな。あれやっぱり施設の中のトイレということになるんでしょうか。トイレトペーパーないですね。切れとったのかどうか私はようわからんのですけど、二、三回行って、なかったということなんで、あれどういうふうな補充の仕方を、だれにお願いしてやっとするのか、お尋ねいたします。

それから、時計の修理、これもう言うの嫌になるんやけども、また狂うてまんのやね。もう何でやと。いや、結構何万円というてあれかかりよんでっせ、あの時計の修理。僕はそう思いませ。1,000円や2,000円で直らないと思うんやけども。どないなっとなかなと思うんで。今現在また狂うてまん。そやさかい、直しよんのはわかる。言うたら直しよんや。わかりまんのや。そやさかい、町は言うて直させようというのは。けど、一遍直したら少なくともまあ1年はもつもんですわ、時計ちゅうようなもんは、普通は。それがあんだ、もう二月か三月でまためげるちゅうような、どうも合点がいかん。その辺の管理、一体、その業者も含めて僕はどないなっとなのやと。そんなもん無料で直せと。瑕疵担保期限みたいなんとうに切れとんにしたって、でも修理してすぐ壊れるちゅうのはおかしいよというのはやっぱり。いや、自分のもんやったら言うでしょう。自分の持ちもんやったら。役場のもんやからまあ金さえ払いたらええわというような感じでおるんやけど、その辺の意識の問題やと思いますんで、僕は金銭の多寡を言うてませんので、意識、管理の意識の問題を言うてますんで、それ含めて答弁願います。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） まず、1点目の使用の際の規制と申しますか断り事ですが、これは当初から変わっておりません。必ずこれはお渡しをいたしております、抜けるということは考えられないということでございます。

それから、2点目の管理の関係で、特に植

木の維持管理というのがそないそう変動するもんじゃないんじゃないかということでございます。内容的には、一般的にはそういった変動要素というのは少ないわけでございますが、金額の決定については入札の結果ということでございます。

それから、トイレトペーパーの関係でございますが、当然日々管理をしていただいておりますところからご連絡を受けて補充をするというところでございます。

それから、時計ですが、もうこれはこれまで修理修理ということで重ねておるんですが、もともともう当初の段階からの時計でございます、恐らく修理というのがもう限界ではないかなあという私は感じを受けております。ですから、もうそれを新たに新しいのをつけるか、もう撤去するかという方法しか残されてないんじゃないかなというふうに感じております。

以上です。

議長（北川嘉明） 上田議員。

上田富夫議員 時計は、もうあれやめたほうがええわ。ほいで、いや、スポンサーつけよ。だれか時計寄附してくれと、そのかわり下のほうにスポンサーつけませと。そのほうがええと思うよ、ほんまに。ほいで、もう狂うような時計はそのかわりすぐ撤去させと条件つけといたらええわけや。だから、あれぐらいやったら僕はスポンサーつくと思いますよ。インターネットのスポンサーより効果あると思いまさかいね。それ考えられたらいかがですかと思います。

それから、清掃業務の委託のところでのトイレトペーパーを私は管理しようように思うわけなんですけれども、だれが清掃業務をしよんかね、今。ほいで、あの中の小屋の中見たら何かやっぱり整理整頓してないね。雑然としたやり方しようから、僕はやっぱり余りいい管理はしてないなど。小屋の中のぞいたらそういうふう印象受けるわけなんやけども、どなたがあれ管理しとってんかね。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 清掃管理につきましては、シルバー人材センターのほうに委託ということでございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

時計のこと、時計のこと言よってや。続けてください。

生活福祉部長（丸尾 満） 時計につきましては、今上田議員さんのほうからご提案がございました。そのご提案も含めて考えてみたいというふうに思います。

以上です。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

嶋澤達也議員。

嶋澤達也議員 清掃業務、上田議員が指摘されるように、これ開閉は、あれ車どめ、これは原の自治会に頼んでおられますね。ほんなら、ついでに清掃も頼まれたらいかがですか。わざわざシルバーの人材にねえ。行っとられるの人、原の人ですよ。何でそんな経由せなあかんのと思いますよ。わざわざやねえ。ほんで、原の人は皆交代で行きよってんですよ。本当にシルバー人材センターだったら、同じ人が何年も、交代とはいえ、村の人やなしに。広く平等に、シルバー人材のほうに注文つけるべきじゃないですか。同じ人が同じようなことでやねえ。私もたまにのぞきますけれど、結構あれですよ、私は気がつくことがありますよ。ただ、村の人が行きよってやから多少は遠慮して自分がしよんですよ。シルバー人材をわざわざ経由されるんだったら。車どめは違うでしょ。村の人が交代で行きよられますよ。ほんで、今年はおまえ行けよ言うてやっていますやん。和やかにやとられますがな。清掃も村の人行ってんで、わざわざシルバーとこへ頼んで行くよりは、やはり原のほうの自治会に、そう、これ全部手数料出よんやから、お願いしてもう村で管理されたいかがですか。と思いますけど、それちょっと経由というんか、今の仕方自身が疑問持ちますけどね。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 今嶋澤議員さんのご提案といえますかご意見につきまして、ご意見として承っておきます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

桜井公晴議員。

桜井公晴議員 墓所の返還還付190万円、これはもう決まったから還付するっていう予算を新年度で計上しとると、こういうことですね。予定ということじゃないと思うんですけど、その辺はどんなんですかね。ほんで、内容説明を求めます。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） これはもう確定の数字ではございません。一応2基分を、2つ分を計上しておるということで、確定の数字を計上しとるということではございません。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

桜井議員。

桜井公晴議員 よっぽどでなかったら墓所返還ということはないんですけども、ここに、それこそ返還要請がもしあれば年間、補正も可能ですし、何でこういうふうに2基を予定することになるんですかね。もう申し込みを受けとうから、ほぼこれは返さないけなから計上しとんかなと私思いよったんですけどね、新年度で。だから、それを何で2基を予定せないけないの。やっぱり返還というのは、これを購入されて、ここにやっぱり骨をいわゆる墓所に身内なんかの弔いをする、骨を入れて墓所としておまつりをする、こういうために買われておるものが、もう新年度でも2基ぐらいは返還があるだろうというのはどういうことか言うて私は聞いとんです。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 例年返還が発生をいたしておりまして、これまでもそういった例年の返還数を平均をしたような形で予

算計上しております。21年度につきましても同様の措置をしたということでございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、これで質疑を終わります。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第26号は、会議規則第39条の規定によって、3日目にお配りしました議案付託表のとおり福祉文教常任委員会に付託することにしたいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 異議なしと認めます。したがって、議案第26号は福祉文教常任委員会に付託することに決定しました。

~~~~~

日程第6 議案第27号 平成21年度
兵庫県太子町下水道事業特別
会計予算

議長（北川嘉明） 日程第6、議案第27号平成21年度兵庫県太子町下水道事業特別会計予算を議題とします。

本案については、2月26日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

全般について質疑を行います。

質疑はありませんか。

桜井公晴議員。

桜井公晴議員 質問の前に、暑いいな、この部屋。エコの時代とちゃうかいな、それこそ。

（「かっかしてるで」の声あり）

暑いいなかな。私だけ暑いんやったら辛抱せなしょうがないんやけど。

議長（北川嘉明） 続けてください。

桜井公晴議員 それで、下水道、1つは負担金で、受益者負担の700万円について猶予分だと説明がありましたけれども、対象地域内で猶予している面積は今どれだけあるんかいね。今回の計上の面積。

それから、過年度受益者負担金の100万円、これについてもどういうことで過年度になっておるのか。ほんで、収納見込みの問題もありますから、その説明を求めます。

それから、再三私は言ってるんですが、一般管理費の中での委託料で金額を明示しない。こういうようなことでは予算にならないと思うんですね。この金額の明示を求めます。停電時マンホールポンプ稼働用発電機の保守点検委託料だけが金額入ってます。

それから、負担金の2億6,449万9,000円の揖保川流域下水道維持管理負担金2億4,000万円の根拠の説明を求めます。前処理場ではこれの根拠を明記してんですが、下水道のほうではそれが明記されていない。

それから、下水道使用料徴収事務負担金の2,323万7,000円、水道との案分ということですが、案分の基本的な根拠となるべき徴収事務費は各会計どれどれを充てておるのか、説明を求めます。言えば、水道との兼ね合いで説明を求めます。

それから、公共下水道事業費の1億5,000万円余りの中で2,422万4,000円が委託料なんですが、これについても複写機の保守点検に12万4,000円を計上しておりますけれども、それ以外は空白と。予算を判断してくれというときにこういうことでは判断できないじゃないですか。その説明を求めます。

また、工事請負費の9,100万円について、これは公共ます設置と下水道管布設工事で、揖保線、それから説明によりますと山田、広坂ほかと、こういう説明でありました。この具体的内容とそれぞれの費用、予算というのが明記されておられませんけれども、これらについても説明を求めます。

それから、今時には下水道使用料との関係で料金を引き上げようとするわけですが、これによって、この料金引き上げというのは全体的には一般会計との兼ね合いがありますが、その引き上げは必要ないように見受けられます。そういう点で再度説明を求めます。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。

まず、負担金の猶予の面積でございますけれども、これにつきましては資料を持ち合わせておりませんのでわかりません。

それと、過年度分の100万円につきましては、やはりいろいろ実績等を考慮しまして置かせていただいております。

それと、委託料の予算書での明示ですが、これにつきましては、やはり入札にかかわることでございますので、金額については記しておりませんということでございます。

それと、工事請負費でございますけれども、これにつきましては、揖保線の県の事業分の工事と、あと町が施工する分の範囲内の工事ということでございます。

それと、料金の件でございますけれども、これも料金改定の案のときにも説明させていただきましたけれども、要は19年度決算委員会での資料によりまして、やはり19年度では1億7,000万円の赤字、純粹ないわゆる国の言う繰り出し基準外の分が1億7,000万円程度でございます。また、今後ともやはり起債が増えてくるといったことから幾らかでもご負担願いたいということでの料金改定ということでございます。

以上です。

議長（北川嘉明） 揖保川流域の負担金。

経済建設部長（富岡慎一） 揖保川流域の負担金でございますけれども、これにつきましては単価約60円と計算しまして、年間40万8,000立米の計算をさせていただきまして計上させていただいております。

それと、下水道使用料の負担金でございますけれども、これにつきましては、いわゆる検針の手数料、それとそれに伴います入力にしましたそのシステム関係の2分の1等の関係を水道、いわゆる俗に言います下水道の接続分につきましては負担ということでございます。

以上です。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

んか。

桜井議員。

桜井公晴議員 資料ありません、どっかで答えるんかいな。ええっ、ありません言うたら、どっかで説明しますという答えがあってもええんじゃないですか。それが1つ。

それから、過年度は置いとるだけと。そうでもないでしょ。既に過年度分で何ぼどないなとってこだけ置きましたと、負担金。ありますわね。過年度で未収になつとる分がある。ほたら、その中でこだけ置きましたと、こういうことでしょ。だから、根拠がそれぞれ必要だということで私聞いとんです。

それから、委託料等については、先の墓園のことも言いましたけど、私はもうこういう、入札が終わらんと金額が入れられませんと、そんなばかな話はどこの世界でもないですよ。さじかげんがいつでもできるようなことでやっとなと同じですからね。だから、積算がしっかりしておれば、きちっと出して予定価格で、その時節の予定価格を設定するというのは、これ入札に係ること、契約に係ることの基礎ですやん。何もなしで、後、補正予算なんかでは差金というのが出てまいります。何がもとの、何でこういう差金になったのかというのがはっきりしないような、こういうものを乱暴にも議会に提案をすると。こういう失礼なことはだめなんですよ。入札等を公正に行うためには、きちっとしておいて、執行段階でシビアな対応をすると、こういうことが当然必要やと思うんですね。だから、何にもしてないからこういうふうな、例えば金額のないところというのは基本的な計算をしてないんじゃないんですか。しとつたら出せるはずですね。当初にしてないからこんなことになるんじゃないかと思うんですけど、いかがですか。出すべきだと私は思うんで再度言っております。

それから、使用料の徴収事務負担金の水道との案分といいますけど、これ計算式がありますな、当然。いや、今一緒になつとうから

言よんですわ、部署が。どないしとんか言うて。ほたら、具体的に言うたら、だれだれの給料から何からを計算しとりますということになれへんですか、全体的に。この使用料徴収事務やからね。計算をして賦課するということやから。ほたら、下水道では2,323万7,000円、水道会計見てもこれの金額は他会計繰入金として載っとる、同じです。同じはわかってますけどね。だけど、それがどういうふうな根拠に基づいてこれが計算されとるか、案分の基礎。だから、それはきちっと説明されないといけないと思うんです。そういう点で尋ねております。

それから、工事請負費の9,100万円の内容も委託料と同じ面があると思うんですが、少なくとも揖保線と山田、広坂という説明したんでしょ。これはどんな工事なのかははっきりしないといけないじゃないですか。これ逆の立場だったらあんたわかりますか、これで。何も無いんですよ。もともとの説明からいうたら何も無いと一緒にや。ほいで、9,100万円上がってますと。何ですかと聞かれたらどう説明しますか。私は余りにも議会の、まあ何でもええから、議会は何でも賛成してくれるさかいに説明もせんでもええんやと、こういうつもりでこないことしとんですか。私は本当に極力内容を理解しようと思って私なりにいろいろ整理をしてみてもさっぱりわからんし、おかしい。だから、説明を求めるわけですよ。いかがですかね。内容説明してください。この工事内容もきちっとせなんだら、ほんなもん9,100万円どこにどないに要るんやというてわかりませんやないか。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。

負担金の猶予の面積につきましては、担当に聞きまして、出るようであれば委員会のほうで報告させていただきます。

それと、過年度分につきましては、いわゆる実績等を勘案してさせていただいております。

それと、先ほど来出てます委託料とか工事請負についての金額の明示でございますけども、差金の話も先ほど出ておりましたですけども、要は工事实施の、いわゆる実施に当たりましては当然予算が伴います。そのときに予算がなければ当然その入札実施についての決裁ができないわけでございまして、そういった中からいわゆる予算としておののけに置いております。ですから、入札につきましては、入札に付すようなものにつきましては、やはり金額がある程度いわゆる類推されるおそれがございますので、明示は一般会計と同様にしておりません。

それと、徴収事務の明細につきましては、先ほど言いましたとおりでございますけども、明細につきましては手許に資料がございませんので、委員会のほうで報告させていただきたいというふうに思います。

それと、工事請負の関係でございますけども、これにつきましては、揖保線につきましては県事業分、町事業分がございまして、町事業分がどの程度できるかというのはちょっとまだはっきりしておりませんので、県事業分につきましては、あの間100メートルの両サイドという格好になるのかなというふうに思います。ですから、約1,000万円強の県事業につきましてはなるのかなというふうに考えとります。それと、町事業分につきましては、2,000万円から3,000万円の間のところを今の現在では予定いたしております。

以上でございます。

議長（北川嘉明） ほかの場所も。

経済建設部長（富岡慎一） ああ、済みません。一応、今のところ予定では、山田のほうでは1,000万円程度、それと広坂ほかとしまして1,000万円程度予定いたしております。

以上です。

議長（北川嘉明） 桜井議員。

桜井公晴議員 いや、僕は、金額は、その1,000万円を、この工事はこういうことを予定してます、この工事はこういうこと予

定してますというのがまずは説明や。だから、金額は当然やと思うてますけど。今、揖保線では100メートル前後で、延長が両サイドに入れて、県事業と町事業、まだ未定だというものの、3,000万円から合わせて4,000万円と、こういうようなことを言ってるわけですけども、ますの工事もわかりませんし、いろいろしても何にもこの工事の内容わからんわけです。ほんで、揖保線については工事があの100メートルそこそこのところをやるうというのは、両サイドでやるうと。ほんで、山田、広坂、何ですいな。どういふこと。どういふ工事なん。説明してください。

それと、ここで言うたら、ますの設置も何個というのが普通はあって当たり前ですわね、予定というのは。そういうことをきちっと説明をするということが大事だと思うんですけど、そういうこと何でここでやらないんかね。例えば、合併浄化槽なんかは2基と、点検清掃4基とかというて、一応説明資料でも出しとんやね。何でこういうところできちっと、当初予定する、合計9,100万円ですから、こういうことがきちっと説明されないといけないから。今、県道分を3,000万円から4,000万円と見てても、半分は山田、広坂で使うということでしょ、大方。これ、どういふことになるかようわからんわけね。ほたら、工事予定もきちっと説明しないとわからんからきちっと説明しなさい言うんですけど、いかがですか。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。

工事請負費の件でございますけども、町の揖保線の町事業、これにつきましては現在たしか400メートル程度やるというふうなことでしてると思うんですけども、これにつきましても現実的にやはりいわゆる道路事業の進捗を見ながら実施する必要があるかということでございます。ですから、今のところその程度予定しているということでございます。

それと、山田の件につきましては、これ多分補正のときにお話しさせていただいたように、一番東ですか、のところで姫路市さんとの協議が残っております。ですから、これにつきましてもやはりはっきりとした延長等につきましては今のところわからない状態で、やはりその話がつけば当然その中でいわゆる設計等しながら発注にするということでございます。

それと、広坂の件につきましては、広坂のあれ北山というんですか、あちらのほうの1件残ってるところにつきまして土地についての同意が得られれば実施したいということでございます。

その他、開発事業の問題も一部出てこようかなということで一応予定いたしております。

以上でございます。

議長（北川嘉明） この際、暫時休憩します。

再開は午後1時10分とします。

（休憩 午後0時06分）

（再開 午後1時09分）

議長（北川嘉明） 休憩前に引き続き会議を開きます。

平成21年度兵庫県太子町下水道事業特別会計予算について質疑をお受けします。

ほかに質疑はありませんか。

上田富夫議員。

上田富夫議員 まず1つは、日本下水道協会の負担金12万4,000円、これ多分全国組織やと思うんですけども、一体これの年間予算というたら、年間予算というたらおかしいですな、この会費が、負担金を集めた金額というのは幾らなんですかね。

それと、JRの網干の電車庫の下を下水が通るとるはずなんですけれども、口径何ぼのもんが何メートルで、幾ら使用料払っとんのか。

それと、あのJRの下に町の、雨水にはならんと思うんですけども、農業用水になるのかな、が何ぼか通っとると思うんですけど

で、あの向こう、雨水、いや、その排水口の横にパイプ通しとんのは、あれは水道とは違うわけなんですな。こう三方コンクリートした側壁にパイプ通しとんのは、あれは水道やなしにＪＲのもんですか、そしたら。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。

水道の管につきましては、先ほども言いましたように、もともと電車基地が来るまでは水路断面が小さかったといったことで、電車基地が来ることによりましてやはり上のほうのほうからの要望等があったと思うんですけども、水路幅を広くしております。そういったことから、その水路幅を広くした、いわゆるＪＲが買った土地も含んだ格好での水路幅になっておりますので、その水路に入っている水道につきましてはＪＲが買った土地という解釈みたいで、ＪＲのほうから賃借料といえますか使用料については請求されるといったというふうなことでございます。

以上です。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、これで質疑を終わります。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第27号は、会議規則第39条の規定によって、3日目にお配りしました議案付託表のとおり経済建設常任委員会に付託することにしたいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 異議なしと認めます。したがって、議案第27号は経済建設常任委員会に付託することに決定しました。

~~~~~

日程第7 議案第28号 平成21年度
兵庫県太子町前処理場事業特別会計予算

議長（北川嘉明） 日程第7、議案第28号

平成21年度兵庫県太子町前処理場事業特別会計予算を議題とします。

本案については、2月26日の本会議で既に提案理由の説明が終わっておりますので、これから質疑を行います。

全般について質疑を行います。

質疑はありませんか。

桜井公晴議員。

桜井公晴議員 今年度は、これも下水道使用料を引き上げていくことになってる予算ではありますが、これを引き上げたからといってもう焼け石に水どころではないということで、意味のないようなものであります。しかし、この施設に住民の血税をつぎ込むのではなくて、基本的には原因者の責任にもとることありますから、原因者の責任に転換するという、これが一番大事やと思うんです。そして、ここへの1億円余りの費用をなくすると、こういうことを必要とするわけでありませんが、これまでも前々処理を義務づけたり、あるいはみずから処理をすることを促すと、求めると、こういうことが必要だということを書いてきたんですけど、この会計の今後のこともありますから、その説明を求めておきたいと。

それから、委託料に係るものは合わせて5,734万2,000円になるわけですが、これらの金額を明示していないものについてきちっとこれも金額を明示すると、こういうふうに求めるものであります。

それから、兵庫西の流域下水の汚泥焼却委託事業負担金に580万円があります。このことについては、580万円の根拠となるものの説明を求めます。

それと、需用費関係で修繕料に579万円を予算化しておりますが、これは土木修理、電機修理、自動車修理ってということなんですけれども、これらがどういうことなんか、あわせて説明を求めます。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。

まず、1点目の原因者負担ということでございますけども、これやはり昭和50年代初めのころに林田川の水質悪化とか、そういう観点から前処理場という施設ができた経緯がございます。ですから、そういった経緯のいろんな経緯の中で、いわゆるそういう原因者負担という原則もあるわけなんですけども、一般会計からの持ち出しということになっているということでございます。

それと、先ほど委託料の件でございますけども、これにつきましては、やはり先ほど来言ってますように、いわゆる入札等に付す場合にはやはり類推されるといったことから金額を抜いているところもございます。

それと、汚泥焼却につきましては、実績等を勘案いたしまして580万円という金額を載せさせていただいております。

それともう一点、修繕料ということでございますけども、これにつきましては、20年度でも補正等で説明させていただきました皮革汚水の管路、コンクリートの管渠といいますが、そういうもののひび割れ等がありまして、これに伴います修理とか、またスクリーンピットの制御盤の修繕とか、また汚泥濃縮槽の操作盤の修理とかということを予定いたしております。

以上でございます。

議長（北川嘉明） 桜井議員。

桜井公晴議員 これも後から、需用費の関係では、579万円の土木修理にはどの程度が必要と。それで、管路のひび割れ防止の修繕、それから汚泥濃縮ということで、電機修理とスクリーンピットというようなことになりましたが、少なくともこういう説明するときに、土木工事はこういうこと、それから電機修理にはこういうこと、それから自動車はわかりますけども、そういうことをしっかり整理せんと、これもわからへんでしょ、どなたが見たって。ほいで、議員もわからへんでしょ。そういうようなことはきちっと説明するように、補足説明でもしないといけないものだと思うんですが、全然こういうことは省略

になっとるわけだね。だから、どの程度のことをこういう形でやろうとしてるんだというのが需用費関係の基本的な予算にならないといけないと思うんですが、その点もう一度確認したいと思います。

それから、金額のことについてはもうここで繰り返しません、一般からすべてのところで委託料、工事請負等で金額抜いとるのは全く判断ができないようなものであると。類推は今の入札をやっていることからでも十分類推して、90%以上の高額で落札するような形になってることこそ改善をすべきやと。最低制限価格を契約によると公表することによって逆算して類推する、こんな簡単なことがまかり通ると。こういうようなことこそ問題です。しかし、予算の積算のほうももっと大事でありますからきちっと説明すべきで、契約を実施する際の実勢を考えた予定価格を設定する。これ当たり前のことなんで、類推されるということをお願いに、類推をいいことにして説明しとったんでは予算を説明したことにならないと思うんですが、その点ここでも確認しときたいと思います。

それから、汚泥焼却の580万円も基本的には実績を勘案するといいますが、何ほのことがこういうになって、ほいで汚水の処理量が減れば減るわけですね。そういうことを含めて根拠を説明してくださいよ。でないと、580万円、ああそうですかというわけにいきません。

それから、林田川の汚濁対策、瀬戸内対策とかということで経過はあります。しかし、太子町が一番サボってきたのは前々処理をさせなかったことです。本来でしたら今の施設は前々処理があれば十分事足りることでありますから、そのことを私は言っただけです。そんなこともさせなかったという責任は重大でありますから、きちっと今日の段階でも原因者が責任を持って処理をして排出をすると、こうなりましたらほとんどの費用は要らなくなるわけです。ましてや、住民が額に汗して働いて納めた税金をこんなところにつぎ込ん

でもらうようなことではないと。こういうことでありますから、その点と、場合によっては、私も前にも提言いたしましたように、この前処理場自身を前々処理をつくらなければ業者に貸し付けると、そして自分みずからが運転してきちっと責任を負うと。そういうことも必要なことではないかと思うんですが、それらについて再度説明を求めます。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。

前処理場の前々処理という観点でございますけれども、本来これまで前々処理といえますのは、やはりしさとかの処理をいわゆる汚泥の排水管路に流して詰まるといったことがありましたので、その前々処理としまして、自分とこの工場から出るしと等が流れ出ないように十分管理をしていただくといったことから前々処理という話が出てきたというふうには聞いております。ですから、当然その業者の方で維持管理していただくのが本来いいのだとは思いますが、現実上やはり同様の費用が要ってくるといったことから今の現状のままやっつけていかなるを得ないというふうには考えております。

以上でございます。

議長（北川嘉明） 580万円は。

経済建設部長（富岡慎一） ああ、濟いませぬ。580万円につきましては、ちょっと資料がありませんので、これにつきましても申しわけありませんけれども委員会のほうで報告させていただきます。

以上でございます。

議長（北川嘉明） 桜井議員。

桜井公晴議員 前々処理のことは当時私もやかましいにその設置を求めました。そやけど、町がサボってきとんですよ。地域によっては前々処理をやっているわけですから、太子町の施設の場合は当初に精度の高い施設をつくったために目詰まりを起こして、すぐにそのものが使えなくなったという経過があります。モデルとなったのは、もう既になく

なっている川西の火打、それから姫路の高木、そしてその当時に同じような時期に建設した四郷、そういうところでも前々処理を行わせて、その処理をする。ほたら、現状の施設は前々処理と変わらないぐらいの能力しかもうないわけですから、これらについて業者に維持管理させても同じような費用が要る。同じような費用が要るといことは業者の責任でやらせたらいいと、町が何にもそれをする必要はないと。こういうことですから、そのことが本来原因者負担でもあり、原因者が汚濁防止に責任を負うと。こういうことがPPPの原則でもあるわけですから、それを追求すると。こういうことが大事でありますので、そういう点は対応を迫らん限りこれは一つも改善はされないと、こういうことです。町がどういう姿勢で臨むかが問題だと思いますが、その点再度説明してください。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。

前処理場の管理につきましては、やはりかなり老朽化もいたしております。そういった中から、やはり近隣等の問題もあり、またこれまでの前処理場の経緯、経過もある中で、今後とも太子町で管理運用をせざるを得ないんじゃないかというふうには考えとります。

以上でございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありますか。

上田富夫議員。

上田富夫議員 あの前処理場については、多分同和对策事業ということで、いわゆる被差別部落の問題を解消するということからあの施設をつくったというふうに私は聞いたんですけども、最近、昔の図鑑というか、いろんな資料が割ともうどこ探しても少ないんですけど、ないんですけども、あそこほんまにいつごろから同和地区やったんですかね。ちょっといろんな資料を調べるんですけども、なかなか出てこんのんですけども、徳川時代やったんですか、明治時代やったんですか、い

つからですか。お尋ねします。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） 前処理場自体は当時同和对策事業といいますが、そういう事業でもって、最近も地域改善事業という形で最近まで補修等もやられていたという経緯は聞いたことはございます。そういった中で、同和地域といいますが何年ごろかという話でございませぬども、これについては私は何も知り得るところではないしわかりませぬ。

以上でございます。

議長（北川嘉明） 上田議員。

上田富夫議員 いや、あれ同和对策でやったんであって、どこでもやれる施設ではなかったんでしょ。また、そういう形で国のほうからも補助金とかというような財政的な援助というか裏づけもあってできた施設じゃないんですかね、あれ。そうじゃなしに、どこでももう太子町が言うた際、そんなこと関係なしに当時できるような、そういう法律のもとにできたもんですか。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） 当時、私も役場に入っておりませんでしたし、そのできたときの経緯は余りというんですか詳しくないんですけれども、多分当時水質、林田川の先ほど出てました水質問題等から、要は前処理場をやはり県のほうから設置等の話が出たんじゃないかといった中から、下水道事業もしくはその同和对策事業、いろんな事業の中から同和对策事業が選ばれたんじゃないかというふうに推察いたします。

以上です。

議長（北川嘉明） 上田議員。

上田富夫議員 それ、おかしいわ。あの法律見たってどこにもそんなこと書いてないで。間違いはないですか。ほんなら、部長、汚染するところやったらどこにでもああいう施設はつくれたということに間違いはないですか。私、そうやったらもう一遍調べ直してみますわ。同和对策事業で、だから同和地区でなか

つたらいかんという一つのくくりがあるように私は理解しとんですけども、そうやないんですか。皮革の汚水やったら、それがたとえどこであろうとも関係なしにできるという、そういう認識でつくったもんですか。私は違うと思うんですよ。それだけ、僕の認識不足やったら何ですから、はっきり答えていただきたいと思います。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。

同和对策事業ということでは建設されたというふうには聞いております。何年か前にもたつの市が大改築したときにも地域改善事業という話を聞いておりますので、前処理場につきましては同和对策事業で多分やられたんじゃないかと。しかし、その地域については、同和地域の方が利用されるとか、そういうことでの話については私はよくわかりませぬし聞いておりませぬ。

以上でございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませぬか。

井川芳昭議員。

井川芳昭議員 少し細かい話になるんですが、11ページの役務費のところの火災保険料、これは一般会計のときにもお話ししたんですが、この47万9,000円の火災保険料のこういったものを担保して、こういった代理店で入られているのかの説明を願いたい。

もう一つは、13ページの備品購入費、エアコンの購入費、これ168万円なんですけど、これがちょっと、こういったエアコンを、何カ所かに設置されるのか、それともそれ自体1つがそれぐらいの値段するのか、それを説明願えますか。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） 火災保険につきましては、これ前処理場の施設ということでございませぬども、ここに入っております会社とかということについては手許に資料がございませぬ

ので、委員会のほうで報告させていただきたいというふうに思います。

それと、もう一点のエアコンの購入費でございますけれども、これにつきましては、2階中央制御室の室外、室内機が硫化水素の影響を受けておりました、これまでもその都度修繕しておりましたんですけれども、平成20年10月にかなり大々的な故障が起きましたので、今回エアコンを購入するということでございます。

以上でございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、これで質疑を終わります。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第28号は、会議規則第39条の規定によって、3日目にお配りしました議案付託表のとおり経済建設常任委員会に付託することにしたいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 異議なしと認めます。したがって、議案第28号は経済建設常任委員会に付託することに決定しました。

~~~~~

日程第8 議案第29号 平成21年度
兵庫県太子町水道事業会計予算

議長（北川嘉明） 日程第8、議案第29号平成21年度兵庫県太子町水道事業会計予算を議題とします。

本案については、2月26日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

全般について質疑を行います。

質疑はありませんか。

桜井公晴議員。

桜井公晴議員 業務の予定量で、一応給水戸数は1万2,967で、年間総配水量が509万ということになっておりますが、工事費関係で

は1億600万円、この内容も説明を求めたいと思います。

それで、この中で東芝の給水予定量と料金見込みについて説明を求めたいと思います。それで、これは前年と今年、対比の説明もあわせて求めたいと思います。

それから、資金計画の中で、有価証券の前年度と今年度、2億9,967万5,000円が今年度ゼロになるとんですけれども、この経過について説明を求めます。

それから、予定貸借対照表で、剰余金が合計で51億5,000万円ですか、になって3,200万円の増と、こういうことになるわけですが、これの主な理由ですね。

それから、配当金で681万円について、これは市場公募公債配当金と、こういうふうになっているわけですが、ユーロ円債の関係であろうと思いますけれども、これは基本的には市場公募公債配当金だけでは説明になっていないと。もっと内容的には明記をする必要があるのではないかと。いわゆる期間とか条件とかを明記をするべきだと思いますが、そういう点での説明を求めます。

それから、原浄水費の委託料1,483万3,000円、それから修繕料の661万円、配水費における委託料の266万円、修繕料の696万9,000円、それから路面復旧費も198万4,000円、調査費の170万円とか、こういうことがあります。それぞれの内容の説明を求めます。

それから、給水費の委託料882万円についても同様であります。

また、総係費の委託料についても2,015万1,000円の内容説明を求めます。

それから、負担金の公共料金暴力対策協議会5,000円、これはどういうことなんですかね。

それから、配水施設改良費の関係での委託料6,062万円、それから工事請負費の2,560万円、これらについて金額等を含めて説明求めます。

それから、機械及び装置購入費で800万円

が上がっています。この点についても説明を求めたいと思います。

先にも私いろいろ総括質疑でも申し上げましたように、本町の場合の先ほど言いますような年間総配水量は、給水量は500万トン余りであります。ほいで、有収水量が444万5,000トン、差し引きが64万5,000トンあるわけですね。この中で、受水費の関係では県水が51万1,000トン、受水の費用としては8,764万2,000円を県に払うと、こういうような形になっております。そういう中で、実際この単純に計算いたしましても、いわゆる本町での500万トン余りの総配水量に対応する水需要と、それからこれを満たすために本町がかけている費用、総費用、全体と、これからかけようとする費用、そういうものをいろいろ計算をしていきますと、本年度だけ見ても事業収益は5億7,200万円であり、資本的支出でも1億3,900万円をかけますが、これでざっとここにかける費用が7億1,100万円、事業費用全体が5億4,980万円ほどになります。これらを総合的に判断をいたしますと、果たして本町が今後これにお金をかけるか、それとも余った県の水を安く買うか、この辺のところはいろいろ計算をしてみる必要がある時期に来てるのではないかなと、こういうふうに思うんですが、実態をきちっと総点検してみるっていうことが大事だと思うんですが、その点いかがですか。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。ちょっと抜けるかもしれませんが、お答えいたします。

まず、株式会社東芝の量の件でございますけども、20年度予定の水量では約88万トンほど予定いたしております。21年度の予定では57万トンほどの予定をいたしております。金額についてはちょっと計算しておりませんが、ほとんどが120円台ということになるのかなとございまして。

それと、有価証券の件でございますけども、これにつきましては、いわゆる今のとこ

ろでは21年度では有価証券を買わないということの予定ということになっております。ですから、当初からあります2億9,000万円、約3億円の金についてはそのまま据え置きとということの考えでございます。

それと、市場公募債の件でございますけども、これにつきましては2.1%が1億円、1.3%が1億円、0.5%が1億円、それとユーロ債であります6%の2分の1が残っておりますので、1億円の3%ということになっております。

それと、委託料、原浄水費の委託料でございますけども、やはり吉福水源地とか老原水源地の警備保障、運転管理委託等の中央監視装置の保守点検委託料とか、マンガンの汚泥処理の委託料とかということで予定させていただいております。

原浄水費の修繕料につきましては、ここに書いておりますように一応吉福のろ過水ポンプ3修理、取水ポンプの取りかえとか、沖代取水ポンプの取りかえとか、山田加圧ポンプの自動通報装置の修理とかという形で予定いたしております。

それと、配水費でございますけども、配水費の委託料でございますけども、これにつきましては水道施設管理のシステムの保守料、データ更新業務の委託料ということでございます。

それと、修繕料につきましては、分水栓、配水管等の修理を一応緊急用に対応するために予算措置をいたしております。中身につきましては、分水栓等の修理としまして月に1万5,000円とか、配水管の修理としましては月に30万円を予定するといったことで、予定といたしますか、一応予算として計上させていただいております。

それと、路面復旧費につきましては、約300平米ほどの予定をいたしております。

調査費は、これ漏水調査ということで、例年やっております漏水調査、順次場所を変えての調査ということで予定いたしております。

それと、給水費の委託料でございますけど

も、検針委託料、これにつきましては、現在5人ですか、5人の方のしております、単価65円で委託しております分の委託料でございます。

それと、満了メーターの取りかえ、これにつきましては一応13ミリについて業者委託を考えております。それ以上につきましては一応直営という形で対応をする予定といたしております。

それと、総係費でございますけども、総係費につきましては、水道会計システムの保守料とかシステム改定作業での委託料、それと今回水道業務を総合評価方式等の検討をしながらいわゆる委託をしてみたいということで水道業務委託を予定いたしております。

それと、公共料金暴力対策協議会というのは、これはやはり公営企業もしくは民間企業、要は電電、関電等の団体等でつくります対策協議会ということで、その負担金ということでございます。

それと、資本的支出の部の委託料でございますけども、これにつきましては立岡山北配水池外実施設計委託料、これにつきましては本来20年度を予定しておりましたんですけども、補助に乗るといったことから21年度に回して実施委託をし、22年度からのいわゆる工事を着手したいということでございます。

それと、吉福水源地の制御室の耐震診断も実施していきたいというふうには考えております。

それと、工事請負費につきましては、吉福水源地フェンス工事、これにつきましては吉福水源地の東側になりますけども、揖保川線という道路がございます。それと揖保線とをタッチする取り合い道路の工事に21年度は入る予定でございますので、それに伴います道路の横につきますフェンス工事をやっていきたい。これにつきましては補償工事ということでございます。それと、消火栓とかの移設工事ということでございます。それと、沖代線、沖代地内配水管移設工事、これにつきましても県の揖保線に係ります工事に伴います

移設工事ということでございます。そういうことでございます。

以上でございます。

濟いません。その下の固定資産購入費、吉福水源地の機械及び装置購入費でございますけども、吉福水源地の取水ポンプ3をいわゆる予備的に購入しておくといったことでございます。それと、ろ過材の流量計、これにつきましては取りかえということでございます。それと、薬品室次亜塩素冷却用エアコンの設置工事ということも今回予定いたしております。

以上でございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

桜井議員。

桜井公晴議員 東芝の予定は去年、今年88万トンと57万トンというたら大幅に減ですけども、料金面でもあわせて今わからんのですか。いやいや、わからんのやったら後で、まあしょうがないですけど、ちゃんと説明するようにしてください。

それから、この予定貸借対照表で見ましても、先ほども言いましたように利益剰余金が2億7,693万2,000円と、剰余金合計が51億5,000万円あるわけですね。ほんで、いわゆる3,275万8,000円の増加になってるんですけど、これの主な要因、聞きましたでしょ。これもきちっと説明をしてもらいたい。

それから、あわせて、先ほども吉福、沖代、老原それぞれ水源があるわけですけども、それぞれの水源から揚水する予定ですね。年間総配水量は509万トンですから、これに基づいて行うそれぞれの水源地からの揚水予定というのも説明をしてもらいたい。

それから、今私がちょっと言いましたように、県水との絡み、それから事業経営というようなことから、基本的には今の丸々県水を、基本料金の計算によって違うんですが、いろいろ計算してみても今後住民に安くて安心な水を安全に安定的に供給するという水道事業に基づいて、単純計算だけ私はしたんです

けれども、509万トンに対して、対してじゃなくて、県水から今既に受水しているものが51万1,000トン予定があるわけですから、それで171円余り、単価は、これが差額、その差は457万9,000トンぐらいになると。これを、単純にやで、私は単純にだけしか計算、県の給水条例全体のことからきちっと計算し、またしないといけませんけれども、ここに丸々払ったとしたら7億8,500万円余りなんやね、町と必要とする水にかかる費用が。単純にですよ。もっと厳密にきちっと計算してみないといけないわけですけども、そのぐらいで対応できると、1年間。それぞれ安定的にできるっていうようなこともありますから、一応計算はきちっとして水道事業見直していくべきではないかと。この点がありますので今尋ねました。そういう点はきちっとやってみる必要があるのではないかと私は聞いたんですから、やっぱり検証してみないとわからないと、こういうことでもありますので、やはり専門的に検証もしてみてください、こういうことを言っております。ほんで、全体的に見れば1年間の収益が5億7,000万円、それから先ほど言いましたように資本的に建設改良等を出してるものが1億3,900万円、7億1,100万円ほどになるんですよ、この損益計算書、予定貸借対照表等から見ますと。事業費用が現にかかるとのが、今回計算出てきておりますのが5億4,900万円ぐらいですから、それぞれ関係のものを整理していったら、ある意味では今後の見通しも立ってくるのではないかなと思うのと、剰余金が利益剰余金と、それから剰余金合計が3,275万8,000円になってると。これはどういうことで増えてきましたかということも説明してください言ってるんで、その説明もあわせて求めます。だから、水道のどこからどの水をどれだけむ予定やということも忘らんように説明をしてもらいたいと思います。

それから、公共料金暴力対策協議会というのは、何かこのことによって、対策協議会によって、ここにいろいろ難癖をつけたり、工

事に難癖をつけたり、いろんなことがあると、そういうことに対して太子町はここで何かのことを相談したりしたことがあるんですか。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。まず、抜けておりましたらまたご指摘いただきたいと思います。

貸借対照表での増、増えた分の件でございますけども、これにつきましてはちょっと資料がないんで、また委員会のほうで報告させていただきますというふうに思います。

それともう一点、どこからくみ上げる、どの井戸からくみ上げるということなんですけど、基本的には沖代をおおむね使って行って、その後沖代……

（桜井公晴議員「うんっ」の声あり）

その後、沖代の水源地、いわゆる……

（桜井公晴議員「沖代、2回言うた」の声あり）

ああ、済んません。老原を一番に考えまして、その後沖代、それと吉福といったような大体の傾向でくみ上げていきたいというふうに聞いております。

（桜井公晴議員「何ぼずつ」の声あり）

ええ、何ぼずつというのは、やはり基本的に時期によっても変わりますし、一概に言えないといったところでございます。

それと、県水の件でございますけども、先ほど来県水を、全部県水でやったらどうかということなんでございますけども、県水、県の企業庁といいますのは、やはり用水供給事業ということで、あくまで水道事業所に対して供給するといったことから、やはりそれをいわゆる供給してもらった団体がまた別に水道事業としてやっていくといったことになってきます。そういいながらも、仮に町が県水をすべてもらった中で運営しようとするならば、県水の単価は今契約水量、日に約6,200トンだったと思うんですけども、その範囲内であれば、現在、日に6,200トンとれ

ば単価は113円前後になろうかなということ
でございます。仮にこれを5万トンすべて、
申込水量、契約水量等があるんですけども、
仮に全部県水でするなら、ですから500万ト
ン掛ける113円ということで5億6,500万円程
度ですか、という形の金額になろうかなとい
うことを考えております。その中でも、やは
り原浄水費がかなり落ちるとは思いますけど
も、給水費、総係費とか配水費等につきまし
てはやはり極端な縮小、削減は難しいんでは
ないかというふうに考えております。です
から、県水に全面的に頼るということは、公
営企業水道事業所としましては、やはり住
民の方に使用料が高くなるのはまず間違
いないというふうな判断をいたしております。

以上でございます。

議長（北川嘉明） 暴力対策。

経済建設部長（富岡慎一） ああ、済
いません。暴力対策につきましては、特に
そんなことはなかったというふうには聞
いておりますが、やはり検針とか徴収
とか、そういった中でいろいろ講習等
もあり、そういう形の中でこういう会
に参加してるということで負担金を
納めております。

以上でございます。

議長（北川嘉明） 桜井議員。

桜井公晴議員 断っておきますが、私
も全部この県水でやりなれとは言
っておりません。一遍検証してはどうか
と言うてはるわけですから、実際に
今大ざっぱな形で説明がございました
けれども、原浄水費やら減るものは
少ないと言うてはるけれども、実際
それでほんまに受けて配水をする、
そういうことの中では、例えば老
原における膜ろ過なんか本当や
ったら不要やったという、その相
殺関係がありますけども、そうい
うことしなくて済んだということ
もありますし、今後の稼働につ
いても影響してくるものと、す
べてを使わなくて済むものがほ
かで供給される水でできること
もありますので、今先ほどは113
円を単純に掛けて5億円ですか、
というような形になってお
りましたけど、厳密ないろいろ計
算を

してみたらどうなるかというのはさら
に一遍検証はする必要があると思
うんですね。それは委員会には一
定のことは出せません、こうい
うことになりますと。で、施設
管理から何から県が押しつけ
とうわけですから、押しつけた
ものを利用すると、やっぱり余
った水の押しつけでもあります
から、それをどうするかという
のは、こちらからの言い分も当
然です。それから、新たな水
源開発はさせないと言
うとんのが県ですから、その
関係も整理が要ると。これら
含めたときに本町の水道供給
では一番、地下水をくみ上げ
て滅菌をして送った水です
から、そんなに高くつくもの
ではないです。しかし、配水池
の費用等はもちろんかか
っておりますけども。先ほど、
ほかのところではございま
したが、水道は、この配水池、
南は60年と説明していま
したけど、そうじゃないね。
40年代ですからね、南。

議長（北川嘉明） 北、北。

桜井公晴議員 ええっ、南。そう
です。北のが古いんですから。
そやさかいに、その後や
ったんですから、50年代
ですよ。60年代ちゃう
でしょ。60年代じゃない
と思います。そういう、
私はそう思うとんです。
それで、40年代に北配
水池をやり、してるわけ
ですから、そういう経過
があつて来てるんですね。
だから、それはしっかり、
余り違わんように言
うといってもらいたい
な思います。

先ほども言いました、
それぞれの揚水予定
というのは立てて
いなかったらあか
んと思うんですね。
地下水のいわゆる
伏流水の枯渇の
状況などで、老
原の水が2月
ごろに減ると
かということ
によって調整
をするという
のはわか
ってます
から、何
ぼをこ
こでく
んで
この
500
万ト
ンを
満
た
さ
う
と
し
と
る
か
と、
こ
う
い
う
こ
と
に
な
る
わ
け
で、
そ
の
説
明
も
後
き
ち
っ
と
で
き
る
よ
う
に
し
て
く
だ
さ
い。

それから、有価証券、私聞き漏らした
んですけど、今年度はもうこれは
予定がないということ
を言うたんですか。そういう
点あわせて説明を求めて
おきたいと思
います。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。

まず最初に、午前中の水道、南配水池の建設と申しますか、送水管の建設を60年と申し上げましたけども、これはちょっと記憶間違いで、50年の間違いです。済みませんでした、どうも。

先ほど来、県水の問題等が出ておりますけども、やはり先ほど言いましたように113円、単価がかかるんですけども、この前段としましてやはり今の計画給水量というのはたしか6,200トン、日になってると思います。ですから、この後仮に9,000トンからの水量をいわゆる県に申し込みするということは他の団体が9,000トン減らすという形になるのかなということで、まずこの問題がかなり大きな問題になってくるのではないかとこのように考えております。

それと、先ほど来言ってますように、今回の予算書でも総係費が6,000万円。6,000万円といえますのは500トン、500トンの水に割り戻しますと12円、12円の水の単価に変わっております。ですから、総係費だけ、このまま採用するのであれば、今113円に12円を加えますと125円の単価になると。ということは、今現在水道が120円、一番高いところが120円ということになりますので、基本的にはやはり水道料金の値上げをせざるを得なくなるのではないかと。単純に言えばそういう形になるということでございます。

それと、資金計画の中での有価証券の件につきましては、21年度につきましては今のところ予定はないということでございます。

以上でございます。

（桜井公晴議員「貸借対照表の3,275万8,000円の増の要因」の声あり）

ああ、済みません。貸借対照表の増の要因につきましては、先ほども委員会で報告させていただくということでございます。

以上でございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

んか。

上田富夫議員。

上田富夫議員 いや、さっきの60年か50年かという話やけども、いや、僕がこだわってるのは車庫ができる前か後かということにこだわってんね。多分、車庫のできる前から僕はあったんと違うんか思うんやけど、その辺にこだわってただけなんですわ。それで、もし、いや、車庫ができた後からというんなら、それはそれでいいんです。年代には、50年、60年には、それはこだわりませんから。

それからもう一点、太子町は前から不明水が多いんですね、率が。それは石綿管やからということをもうずうっと10年も20年も前から同じ説明繰り返してんんですけども、もうほとんど石綿管はなくなったと思うんやけども、でも不明水については余り率変わらんですわ。これ、全国の水道の何が本出しとん見たら、結構95%とかというところいっぱいあるわけですよ。太子町は考えたら物すごい条件ええわけね。人口密度が高いということで、3万何ぼの人口に対する配水管の長さというのは効率ええんですよ。したがって、配水池もポンプも1カ所で済むから、1カ所というか、まあ言うたらここやったら2カ所の配水池でええわけですからね。ところが、田舎へ行ったらあっちこっちにいっぱい分けてしとうところもあるんで、いろんな面からいうてかなり条件のいい町やと思うのに、やっぱり依然とその不明水が減らないと、大して。この原因は一体何なのかというのを僕はもっと追求してほしいんですわ。ほんまに漏水や漏水やというてずっと言うてるけど、ここへきたら僕は漏水と違うと思うよ、この原因は。これ、料金に物すごい影響してくる量ですからね、水量からいうたら。この辺はどういうふうに、もう石綿管やから漏水するという言いわけはもう僕はきかんと思うんやけども、その説明を求めたいと思います。

あと、受取利息をもう少し詳細に説明をいただきたいと思います。

以上。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。

先ほど来言ってます送水管が昭和50年ということで布設しているはずでございます。電車基地ができますのはたしか43年前後にできておりますので、先ほど説明しましたとおりの結果ということでございます。

それと、不明水の件につきましては、これも委員会ではたしか質疑があって資料等も多分提出したような記憶があるんですけども、現実の問題としましては、下水が来るまでに比べて約半減、現在不明水については半減してるといったような状況でございます。ですから、たしかそういうふうな説明をしたように、水道事業所のほうからしたように覚えております。

それと、配当金の件でございますけども、先ほどと同じ説明になるんですけども、要はいわゆる国債ですか、国債と、ちょっとあとの件につきましては記憶は余りないんですけども、国債がたしか2本あったような記憶がしております。そういうことで今現在4本の予定となっております。1件が2.01%、もう一件が1.3%、もう一件が0.5%、それとユーロ債の6%の半分の分が3%ということでございます。

以上です。

議長（北川嘉明） 上田議員。

上田富夫議員 あれ、ユーロ債は予定として組んどんですか、確実に入るとして組んどんですか。予定でうまくいったら入るやろうということで組んどんですか。もう100%300万円は入るといことなんですか。それをお答えいただきたいと思います。

それから、不明水のことですけど、半分とかどうやて、率にしてどないなってますか。全国平均で出たやつというのは、その何ぼが何ぼというより、率で結構出しているのやね。全配水量に対して何%やというのが出ると、上位、高いところからずうっと書いて

あるんで、太子町はほなどの辺のランクにあるんやというのはその率で一番ようわかるんで、率でどないなってます。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） 配当金につきましては、これは確定ということでございます。

それと、不明水の率の件でございますけども、余りはっきりした数字は覚えてないんですけども、たしか6%前後じゃなかったかなというふうに覚えとります。

以上です。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

井川芳昭議員。

井川芳昭議員 20ページのとこの給水費で、賃金のところで水道技術員賃金とありますが、この220万円ていうのは、どういった人数で、どういったことをして、どういった頻度があってこの料金発生しているのかと。

もう一つは、14番のとこの保険料のとこで自賠責保険料の隣の公用車保険料、これは自動車の損害保険料になるんでしょうか。そうであれば、これ何台の保険料で、どういったことを担保してこの保険料になるのか。また、詳細わからなければ委員会のほうで説明いただきたいと思います。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。

20ページの水道技術員賃金につきましては、これにつきましては嘱託ということで、いわゆる土日、金、土、日、月ですか、その間働いていただいている方でございます。

それと、公用車保険料につきましては、それにつきましては自賠責の保険料ということで、車4台と、いわゆる、ああ、済いません、任意保険料につきましては手許に資料がございません。申しわけありません。

以上でございます。

議長（北川嘉明） 委員会で言うて、委員会

経済建設部長（富岡慎一） 委員会で報告させていただきます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、これで質疑を終わります。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第29号は、会議規則第39条の規定によって、3日目にお配りしました議案付託表のとおり経済建設常任委員会に付託することにしたいと思っております。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 異議なしと認めます。したがって、議案第29号は経済建設常任委員会に付託することに決定しました。

~~~~~

日程第9 議案第1号 平成20年度兵庫県太子町一般会計補正予算（第4号）

議長（北川嘉明） 日程第9、議案第1号平成20年度兵庫県太子町一般会計補正予算（第4号）を議題とします。

本案については、3月3日に引き続いて質疑を続行します。

質疑はありませんか。

村田興亞議員。

村田興亞議員 31ページの委託料で定額給付金についてお伺いしたいんですけど、これの1,062万9,000円で業務委託料と人材派遣とありますけど、これについてちょっと内容がわかれば教えていただきたい。

それと、19の負担金補助及び交付金で、給付金が19歳から65歳と、65歳以上、19歳未満ということで、それぞれ人数の表示がありますが、これの中に例えば、今いろいろテレビ等でも宣伝されてますけど、特定老人ホームとか、そういうところに入居されてる人数については何人ぐらいあって、そしてまたその給付についてはどういう形をとるのが、その辺についてお伺いしたいと思います。

議長（北川嘉明） 総務部長。

総務部長（佐々木正人） まず、委託料のほうでございますが、給付金と業務委託料、これにつきまして給付するための名簿作成がございます。そのためのシステム代でございます。それと、人材派遣委託料、これにつきましては、その定額給付の事務をやっていた方、4名を予定しております。

それと、負担金補助の関係でございますが、老人ホームのほうのちょっと私人数は今ここ手持ち資料がございませんが、一応職員がホームに出向きまして説明をさせていただいてするというところでございます。

以上です。

議長（北川嘉明） 村田議員。

村田興亞議員 それと、この補正が最終的に通れば、その作業に具体的に入られると思うんですけど、いろいろ新聞等でも各市町の給付日程とかが言われておりますけど、太子町については4月というふうなことが出ておりましたけど、例えばたつの市が近隣では一番早く市で給付したというようなことも出て、姫路市も早くするとかというのありましたけど、当町のスケジュールについてどうなってるのか。それから、最終的には何月ぐらいがこれ期限になってるのか、それだけ教えてください。

議長（北川嘉明） 総務部長。

総務部長（佐々木正人） うちのほうとしましては、前にお話しさせていただいたんで3月9日、きょうでございますね、きょうの予算の成立を見まして発送の準備というんですか、いたしまして、3月16日には全世帯に届くような形で手続を終えたいということでございます。それ以後、個人からの申請に基づきまして書類を審査しまして順次決定というんですか、振り込みの手続をしたいということでございます。一応、申請の受け付けをしてからの6カ月間ということでございますが、一番忙しい時期は4月の中旬ぐらいという見込みでございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

んか。

桜井公晴議員。

桜井公晴議員 ちょっと債務負担行為で確認をしておきたいと思うんですが、石海小学校の普通教室設置事業が追加されて20年から25年の2,500万円と、こういうことがあるんですが、歳出の工事請負費の減額1,000万円とのかかわりで内容的に再度説明を求めたいと思います。

それから、これ後の工事請負契約との絡みもあるんですが、糸井・矢田部地内の排土客土事業で、これも債務負担で3億5,141万6,000円が7億1,624万8,000円とこういうふうになり、20年、21年をかけてという形に追加補正されておるわけですが、これは後々調査をして委員会のほうで説明をするということになっておりますからくどくど言いませんが、せんだってもしましたように、助久のところに積んでおる土については当初は客土に使うと、こういう予定だったけれども、検査の結果一部に垂鉛等の汚染があると、こういうようなことからそれを使うことは見合わすと、こういうようなことにしたということの説明がありました。これの検査した、またそういう実際に汚染された土はまずは動かさないというのが原則ですわね。そして、それをどこでどう処理するかがあとは問題であります。そういうことについて、まず動かさないという確認がとれていないといけないと思うんですが、その点と、それから下請等の実態については、土地改良から7億1,000万円余りで、事務費も含んでおりますけれども、こう受けて、下請にどういう形で出し、本町関係がどうかかわるとかということの説明がちょっとまだ十分ではありませんので、契約のところでも聞いたらいいんですが、予算のところでも説明を求めたいと思います。

それから、使用料、手数料で、ちょっと幼稚園の保育料とか使用料は計上されとるんですが、文化会館の使用料は計上されていないように思うんです。これは何ですかね。年

度の途中であるはずですから、当然これが計上されないといけないんですが、どういうことかということ。

それから、民生費の関係で、備品購入費の緊急通報装置が278万5,000円の減額補正をしているわけですが、これは自治体によっては今年度の予算の中でもいろいろ工夫してやっておられる中に高齢者の独居老人なんかに係るものとして、緊急時の対策としてカプセル状のもので、いわゆるかかりつけのお医者さんとか服用している薬だとか、そこに住んでおられる方の情報がすぐにわかるように交付をして冷蔵庫等、きちっとすぐにだれもが緊急時にわかるようなものとして冷蔵庫に置いておくような、こういうようなことで交付をしている自治体があちこちで見られると。こういう減額は減額ですが、そういう対策も、すぐに血液等もきちっとわかるような、いわゆるデータ、それがもう緊急時にしか公表されない、カプセルにしとけば、それで一番わかりよいのは、どこかに置くよりも冷蔵庫ということで、きちっと置いてくださいという、だれが行っても緊急時には救急の者が行った場合にわかるような形で個人、その人の情報を得て、そして適切な判断ができるようにするということが手をつけている自治体もあるわけですが、こういう点は本町も進めるべきだと思うんですけど、そういう通報システムとあわせて、問題点はそういうところもはっきり補完しておくべきだろうと思うんで、説明求めます。

それから、上太田の塵芥処理費で瓦れき処分に係るものですが、質問に対する答弁では、昨年度が1,002トン、ほいで1,590円、それから今年度が1,000トンで1,050円と、こういうふうな説明をしてるわけですが、...。

トン当たり。私、トン当たりで言うてます。入札の結果ということではありますが、なぜこのように違ってきたんかね、去年と今年と。昨年度が甘かったんかということ、それから業者が固定していたためにこういうこと

が、相見積もりというたらそういう結果を生むということになったんかと私は思うんですが、そういう点の説明を求めます。

それから、小学校費等でもですが、委託料で金額が明示されていないものがここにもあります。いわゆる委託料とか工事請負費におきましては、入札残とか差金とかいろいろ説明を後でするわけですがけれども、予定価格を伏せておいて、残や差金が当然であるかのように言いますが、正当であるかのように言いますが、これは全く検証するすべがないと、こういうようなことで、補正予算の合理性、妥当性、公正性が疑われるということになるわけですが、それらについてやはり積算の基礎、根拠をきちっと明確にして予定価格を適切に設定すると、こういう基本的な原則的なことでやるべきだと思うんですが、説明を求めます。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） まず、民生費でのお尋ねがございました。緊急通報装置の関係、減額に関連で、全国の例を今桜井議員さんがお示しになったんですが、カプセルにして情報をだれでもが緊急時見れるようにということなんですが、本町におきましてどう進めるかということでございます。一度考えてみたいというふうに思います。

それから、上太田の瓦れきの関係でございますが、前年の額に対しまして非常に安くなったという要因でございますけれども、これはもう先ほどというか前回お答えをいたしましたように見積入札の結果ということでございます。

以上でございます。

議長（北川嘉明） はい、どうぞ、続けてください。

生活福祉部長（丸尾 満） それから、前回報告事項がございました。佐野議員さんから39ページの難病のところ、表現の中で「等」があるということございましたんですが、これにつきましては調べますと、今現在国のほうで大体123疾患が指定をされてお

るんですが、それ以外に1つ、慢性のリウマチ、慢性関節リウマチというのがプラス1というような形で言われておまして、その病名が指定の123に加えての1つということでの「等」を使ってるというふうになっております。

それと、町内でどれほどの患者さんというのがいられるかということなんですが、この123疾患、全疾患についてはちょっと数字は県のほうもわかりかねると。この123疾患のうち45疾患が俗に言います公費での医療費負担助成ということになりまして、その45疾患の対象としております、俗に言います特定疾患医療受給者でございますけれども、この方々については20年3月末の、ですから19年度末の数字になってくるんですが、大体157人ということで保健所のほうから数字をいただいております。

以上でございます。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。

排土客土の助欠の土の件でございますけれども、この基準といいますのは、農用地における土壤中の重金属等の蓄積防止に係る管理基準ということで、再生有機質資材の農用地における適切な使用を図り、土壤中の重金属の蓄積による生物の生育への影響を防止することを目的に管理基準が設定されております。ですから、土壤汚染防止等に関する法律ではなしに、要は鶏ふんとか牛ふんとか、そういういわゆる再生有機質資材を水田等に入れることによって、その含まれている、そういう堆肥に亜鉛が含まれてることで蓄積されるということの基準が120ミリグラムパーキログラムという基準となっております。ですから、基本的には、今言いましたように、動かさない土という、動かさないという土ではなしに、要は生育上余り同じものを入れてはだめですよということの基準ということでございます。

以上でございます。

それと、下請に関する事でございますけれども、これについては担当部署から聞いておりませんので、今のところわかりません。

以上でございます。

議長（北川嘉明） 債務負担行為言いよってやる。矢田部の債務負担……

（経済建設部長富岡慎一「いや、それ今の違うん。債務負担行為を言うん」の声あり）

うん、聞きよったん違うんかな。

経済建設部長（富岡慎一） ああ、債務負担行為の件につきましても、その助久の土の件につきまして詳しいことは予算委員会で担当部署より説明させていただきます。

以上です。

議長（北川嘉明） 教育次長。

教育次長（塚原二良） 教育関係、お答えしたいと思います。

委託料また工事請負費の金額明示についてでございますが、経済建設部長が申しましたように、入札に係る金額の類推ということもございまして明示してないということでございます。

それと、文化会館の使用料についてお尋ねがございましたですけども、幼稚園のそもそも使用につきましては、これは最初に科目で説明欄にございませんでした。そのため収入がありましたもんですから幼稚園の使用料ということで明示をさせていただいております。

また、文化会館につきましては、当初使用料として1,812万円ほど予定しておりますので、それと近い、これは昨年等々の実績で予定をしとるわけでございまして、それぐらいの金額が入ってくるということで、今回は補正の予定はないということでございます。

それと、債務負担行為、石海小学校教室の設置事業でございます。この関係につきましては、今年度はご案内のように学童保育室の移動ということで、石海の学童を石海農協跡ということで、中の改造等を考えておったわけでございますけども、一部時期的にちょっ

とずれた関係で、いろいろと検討しまして、仮設の教室の対応が一番円滑に進むんではないかということで、これは今年度が一番入学の児童がピーク、1年生が一番多いと、今後は徐々に減っていくだろうということもございまして、また学童の跡を教室にしても、特別教室のところ普通教室という関係で、1つだけが普通教室が離れるということもございまして、そういうことじゃなしにプレハブ対応なので、それと1室はそうなんですけど、もう一室は特別支援の児童が入ってくる予定もございまして、2教室が必要だということで急遽補正によりまして、要するに学童の跡を改造するんじゃなしにプレハブで対応して、学童の跡の改造費は減額していこうということでございます。

以上でございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

桜井議員。

桜井公晴議員 債務負担の関係で石海小学校、結局は25年までそのプレハブ使うということ、早く言うたらそういうことか。ええっ。もうちょっとようわかるように言うたほうがわかるんやけど。結局使うからもうこの転用の減額したのはこういうことになりましたということで、25年までの2,500万円の債務負担がそれに当たるということなんやね。もう一回説明してくださいよ。

それから、もう一つの債務負担で言っておりますものについては委員会言うことでどくど言わんけれども、土は、少なくともそういうふうに言われるものは動かしてしまったらいけないんで、ある程度やっぱきちっとした、後に心配が要らないような状況で排出したり処理をすると、こういうことが当たり前のことなんですけども、そういうことについてはどういうふうにしてしようとしてるんですか。それはもう一回説明を求めます。

それから、文化会館使用料と言うたのは、私はもう公表、公開、公募ということを繰り返せというて議会から意見書として提出し

た、やっぱり公正に反するという事は、今もそれはもう当然だと思うんで。白紙からやり直すべきだと思うんですが、喫茶室の使用料も当然入るでしょう、これ。それはどないなとったんかいね。この補正予算までの間のことは。幼稚園は科目として今入れましたということはそれでいいですけども、他の文化会館使用料とは別にこれがかかわってくるのではないかということで、使用料ということで言ってます。

それから、衛生費関係の入札の結果、いわゆる処分場のことですよ、見積入札の結果こうなったというのは、これは何回も言っとんやさかい、そうやなというのはわかっとんですけども、なぜこのように大幅に減るということになったか。それは尋ねたように見積もりの業者が変わったからなのか、それともこれらの単価が大幅に減って3分の2になったんかというのは疑問な点です。だから、これはなぜこうなったのかというて聞いとんですわ。結果こうですじゃなくて、そういう彼我の関係を見て、もともと159万円も組まなくてええものを前は組んどって、それに等しいものとして歳出をするという形になったんでしょ。そしたら、厳密にやればまた違ったことが後々出てくるということの証明じゃないですか。そういうことを私は伺っとんです。再度それらの説明を求めます。

議長（北川嘉明） 教育次長。

教育次長（塚原二良） 文化会館の使用料関係でございますけども、20年当初は見積もり、要するに予算的には見積もってなかったということでございまして。

それと、債務負担行為の石海のプレハブでございます。今、先ほど答弁させていただいたように、今後この5年間ほどを乗り切ればということもございまして、今がピークということで、20年から25年の債務負担行為でもって5年間を対応するための措置でございます。

以上でございます。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 上太田の件でございますけども、要因、分析といったような観点でのお尋ねかと思いますが、断言できるというところについてはわかりかねるというところでございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありますか。

経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） 先ほども説明いたしましたように、蓄積されてはいけないという管理基準でございますので、別段問題はないということでございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

まず、原案反対の方の発言を許します。

桜井公晴議員。

桜井公晴議員 この予算では債務負担行為に係るものでは私は契約でも当初にも反対をしておりますし、後の契約にも反対をいたしますけれども、土地改良に外注に出すべきものでもないというようなことを含めて言いました。今日ここではどういう状況で工事をするかというの、仮置き場からは当然だと思いますが、埋め立てするところが仮置き場までとりに来て排出をする、土の確認をするためだと思います。そういう経費がかかるようにつくられているようにも思いますのと、この協会のほうに入るお金のほうと、それから実態が鮮明でございませんで、これは一つの反対理由にしたいと思います。

それから、文化会館の使用料でも、当初に組んでおらなければ、それぞれ決定した段階と補正予算を提案する段階から見れば、これらについても、やったことはいけないですけども、使用料としては計上するべき、内容にプラスにするべきことではないかと、このように思います。

それから、特にであります、金額を明示しない委託料、工事請負費などについては、何回も言いますが、入札残あるいは入札差金と、こういう説明がありましても、もともとが何であったかどうであったかということも伏せておいて、そして残金とか差金が正当であるか、またその工事あるいは委託は正当な取引になっただけなのかどうか、また工事内容がそうであったのかどうかというのは全く議会としても住民としては検証もできない。こういうふうになっているわけですから、補正予算の合理性、妥当性に欠けると、このように考え、反対討論といたします。

議長（北川嘉明） 次に、原案賛成の方の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 原案反対の方の発言を許します。

長谷川原司議員。

長谷川原司議員 私は、今回国から出されました交付金の使い方につきまして疑問がありますので、反対させていただきます。

この座っておられる議員の皆様も、最近の経済情勢はかつてなく不安定な状態であり、日本を代表する企業が多額の赤字決算を発表し、派遣労働者のカットはもちろんのこと、正社員まで雇用不安に陥っております。

この太子町におきましても、地域ナンバーワンの東芝でさえも生産調整に伴い社員は給料の大幅な減少を余儀なくされております。また、会社からアルバイトするように勧められ、これは大企業でさえ社員の生活給を保障できないという大変な事態になっていると思えます。

そこで、国においては、地方の疲弊した経済状態を認識し、その対策費として各自治体に地域活性化緊急安心実現総合対策交付金、地域活性化・生活対策臨時交付金を決定したのではないのでしょうか。

各自治体のホームページを見れば、この交付金を財源にしたであろう、困っている住民に対しての各事業が紹介されております。中

には、昨今の経済状況の悪化に対して、労働者、中小企業の抱える金融、雇用、住宅などの不安を解消するため、行政、商工会、職業安定所が連携し、地域緊急経済対策本部会議を設置し、具体的な対策をまとめて、補正予算に事業名を挙げています。

それに比べまして、今回出てきました太子町の補正予算はいかがでしょうか。疑問があります。私は、我が太子町にもそれに類する事業の一つでも予算化してほしいと希望しております。しかし、今回太子町のこの交付金を使う補正予算事業には地域活性化また住民生活対策にはほど遠い事業なので、改めてほしい理由で反対といたします。

議長（北川嘉明） 原案賛成の方の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 原案反対の方の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ほかに討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、これで討論を終わります。

これから議案第1号を採決します。

この採決は挙手によって行います。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

議長（北川嘉明） 挙手多数です。したがって、議案第1号は原案のとおり可決されました。

この際、暫時休憩します。

再開は3時20分とします。

（休憩 午後3時05分）

（再開 午後3時30分）

議長（北川嘉明） 休憩前に引き続き会議を開きます。

~~~~~

日程第10 議案第2号 平成20年度
兵庫県太子町国民健康保険

特別会計補正予算（第3号）

議長（北川嘉明） 日程第10、議案第2号平成20年度兵庫県太子町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

本案については、3月3日に続いて質疑を続行します。

質疑はありませんか。

生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） この間、服部議員さんのほうから9ページの育成指導補助金の減額について、その理由ということでございました。交付申請に基づく減額ですという答弁をしたんですが、それではわからないということでございましたので、詳しく申し上げたいと存じます。

この補助金につきましては、例えばその対象者の増減が、変更が生じたとかといった、よく見られる補助金ではございませんで、県が実施をしております福祉医療制度、この実施に伴いますところの波及増医療費、医療費が全般に国保の関係者も増えるといったこと等を総合的に勘案をいたしましての、俗に言います総合補助金ということでございまして、県の内示額に合わせたの交付申請で減額ということでございます。よろしく申し上げます。

議長（北川嘉明） 質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 討論なしと認めます。

これから議案第2号を採決します。

この採決は挙手によって行います。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

議長（北川嘉明） 挙手多数です。したがって、議案第2号は原案のとおり可決されま

した。

~~~~~

日程第11 議案第3号 平成20年度兵庫県太子町介護保険特別会計補正予算（第3号）

議長（北川嘉明） 日程第11、議案第3号平成20年度兵庫県太子町介護保険特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

本案については、3月3日に続いて質疑を続行します。

質疑はありませんか。

桜井公晴議員。

桜井公晴議員 前回にも質問をしましたんですが、これでどれだけ改善されるかが問題です。先にも紹介をしましたように、介護保険は積立金に回ることが全国的にも大きなことになっておるわけですから、これらのことを使ってもっと使いやすくすることにしなさいといけないんですが、今回の補正でどれだけ改善されるか、もう一度説明を求めます。

議長（北川嘉明） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 改善と申しますと、次期計画への補正額が含まれておりまして、それらを含めると、現在やはり諸課題とされてる部分について次期計画のほうに盛り込んでいく部分があるということでお答えをしたいと思います。具体ということになりますとちょっとわかりかねるんですが、またその準備金の積み立て等も今回の補正によって計上いたしておりますので、これらについても介護従事者等への、実施年度は21年度ということになってまいりますけれども、それらに向けての国のてこ入れといったことでの点が挙げられるというふうに存じます。

以上でございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

まず、原案反対の方の発言を許します。

桜井公晴議員。

桜井公晴議員 介護保険については、やかましい言うておりますように、結局は制度が3年ごとに変えられるたびによくなってるのではなくて悪くなっていってると、こういうようなことでもあります。それで、本当に保険が保険として役立つようにしていくことが改善というんですが、改悪にされるようなことがあってはなりません。

それから、実際に介護サービスと保険との絡みで差が生じて、介護保険財政のため込みが全国的に増えとんですね。使い切れなかったわけです。抑えて抑えてするから、保険料取りながら抑えて抑えてするからお金が余って、昨年度、いわゆる今年度、20年度の全国的な残高というのが3,800億円とも言われております。こういうようなことで、ため込んでおけるわけですから、これまでの2倍にもなると言われているわけでありまして。

ただ、この制度は改善をする中で大事な点というのは、国の負担を増やさなければ、サービスを増やすと保険料に連動する。そういう中で、保険の費用のうち保険料が50%で、国の負担というのは在宅関係で25%、施設関係で20%にも過ぎないわけですから、保険料を引き上げずに介護サービスを充実させるというのが改善だと思えます。そういう点から、いや、またそうしないと、連動する関係からサービスが増えれば保険料が上がるといような仕組みでは、ますます使いようにも使いにくくなってしまふといようなことでありますので、国に対してその負担を引き上げさせない限り両方をよくすることはできないと、こういうことであります。

それと、先の質疑でも言いましたように、認定審査に当たることについても、申請者の実情に即して十分検証の上、保険があったために助かったといようなところに改善が必要やと思えます。しかし、今回の形の中ではどれがどういふことも言えないといような

ことですから、もっときちっとした改善を迫る。ほいで、本町でもそれに伴う対応するというのを求めて反対討論いたします。

議長（北川嘉明） 次に、原案賛成の方の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 原案反対の方の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ほかに討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、これで討論を終わります。

これから議案第3号を採決します。

この採決は挙手によって行います。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

議長（北川嘉明） 挙手多数です。したがって、議案第3号は原案のとおり可決されました。

~~~~~

日程第12 議案第4号 平成20年度
兵庫県太子町老人保健特別
会計補正予算（第3号）

議長（北川嘉明） 日程第12、議案第4号平成20年度兵庫県太子町老人保健特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

本案については、3月3日に続いて質疑を続行します。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 討論なしと認めます。

これから議案第4号を採決します。

この採決は挙手によって行います。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

(挙手多数)

議長 (北川嘉明) 挙手多数です。したがって、議案第 4 号は原案のとおり可決されました。

~~~~~

日程第 13 議案第 5 号 平成 20 年度
兵庫県太子町後期高齢者医療特別会計補正予算 (第 2 号)

議長 (北川嘉明) 日程第 13、議案第 5 号平成 20 年度兵庫県太子町後期高齢者医療特別会計補正予算 (第 2 号) を議題とします。

本案については、3 月 3 日に続いて質疑を続行します。

質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

議長 (北川嘉明) 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

まず、原案反対の方の発言を許します。

桜井公晴議員。

桜井公晴議員 この制度については、これも何回も言いますが、この対象となる 75 歳以上の高齢者を初め住民各層から大きな批判を受けて怒りが広がってきたために、それを和らげるために負担を先送りすると、こういうような見直しを今進めようとしているわけがありますけれども、見直して済むような問題ではありません。やはり 75 歳以上の高齢者を各保険からも、また現役世代全体からも切り離して、いずれ病気にかかるんだからというようなことで医療費の抑制をするような差別医療制度の押しつけでありますし、これをこの中で医療にかかればそれだけ保険料が増える仕組み、これは何としてもやめなければいけませんし、現役世代にもすべての住民に係ることが支援金という形で負担が押しつけられる、こういうことは今までの制度の中でも最悪のものであります。こういうような制度は一日も早く廃止するほうが国民のためになってまいりますし、本町のこの予算においてもそのことを主張し、負担しかないというこ

とを主張して反対討論といたします。

議長 (北川嘉明) 次に、原案賛成の方の発言を許します。

(「なし」の声あり)

議長 (北川嘉明) 原案反対の方の発言を許します。

上田富夫議員。

上田富夫議員 私は、この後期高齢者医療制度だけでなし、いろんな施策、国保も含めて、行政の態度が何かもう国の施策やからしやないと、そやから町はどないもでけへのやという、そんな何か人任せのような気がしてならないんです。

ただ、全国的にいろいろ調べてみますと、その自治体自治体によって、やっぱり老人に対してのいろんな対策を自治体独自でやりますね。例えばタクシー券を出すとか、それからバスとか交通機関の地下鉄等も含めてですけども無料バス出すとか、やっぱりいろんな施策をやとんです。たかが知れてますよ。しかし、やっぱりそういう何とか自分たちの地域に明るく元気になってもらおうというような、そんな予算が組まれるんですね。それは、それが 1,000 万円か 2,000 万円かわかりませんが、しかしそういうやっぱり我が町では何かこういう施策をしますよと、皆さん元気にやりましょうと、そんなやっぱりメッセージが残念ながら太子町にはないというのが非常に残念なんです。

ですから、やっぱり私は後期高齢者のこの予算に対してもそういうものが、人間らしい温かさというのがもうどうにも出てこない。残念でございます。これからの予算の組み方でその辺を、金額的なこと言いませんわ。気持ちがやっぱりそこにあると、そんなことが伝わるような予算の組み方をしたいと思っています。そういう要望をしまして、この予算については反対をさせていただきます。

議長 (北川嘉明) 原案賛成の方の発言を許します。

(「なし」の声あり)

議長（北川嘉明） 原案反対の方の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ほかに討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、これで討論を終わります。

これから議案第5号を採決します。

この採決は挙手によって行います。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

議長（北川嘉明） 挙手多数です。したがって、議案第5号は原案のとおり可決されました。

~~~~~

日程第14 議案第6号 平成20年度
兵庫県太子町墓園事業特別
会計補正予算（第2号）

議長（北川嘉明） 日程第14、議案第6号平成20年度兵庫県太子町墓園事業特別会計補正予算（第2号）を議題とします。

本案については、3日3日に続いて質疑を続行します。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 討論なしと認めます。

これから議案第6号を採決します。

この採決は挙手によって行います。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

議長（北川嘉明） 挙手多数です。したがって、議案第6号は原案のとおり可決されました。

~~~~~

日程第15 議案第7号 平成20年度

兵庫県太子町下水道事業特別会計補正予算（第3号）

議長（北川嘉明） 日程第15、議案第7号平成20年度兵庫県太子町下水道事業特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

本案については、3月3日に続いて質疑を続行します。

質疑はありませんか。

経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） 先の議会で説明資料がなく説明できていなかった分につきまして説明いたします。

未接続世帯の数でございますけども、1,867戸ということでございます。

もう一点、3年以内に接続をお願いしたいということでの通知を出させていただいてる分、内容がきついのではないかとご指摘がございました。これにつきまして、その文章を見てみますと、以前に比べては若干きつくなってるのではないかという気はしますけども、中身をちょっと簡単に読ませさせていただきます。

まず、表題としまして、水洗化工事の改造義務の期限について（通知）という格好で各戸に配付というんですか郵送させていただいております。その中で、記としまして3問、いわゆる所在地と、処理できる区域となった日と、水洗化工事をしなければならない期限という表現で3番目に書いてございます。これにつきまして、やはり下水道法からそのまま、下水の処理を開始すべき日から3年以内に水洗便所に改造しなければならないという、下水道法に載っていますこの文章をそのまま採用しているようでございます。ですから、この辺について若干これまでに比べたらきつくなってるかもしれないというふうな感じでございます。

以上でございます。

議長（北川嘉明） 質疑はありませんか。

桜井公晴議員。

桜井公晴議員 この中でも、先ほども部長答弁をしておりましたけれども、水洗化の通

知文書をわざわざ読み上げていただいて、これがきついかきついなにか判断をしなければと、そういうことで読み上げたんかわからんけども、受け取る側は、私なんかは、ああこういうことかと言いますけど、そうでない人たちは、実際に私んとこへも、こんな通知が、最初にも本当は説明はしとるわけですから、二、三年したらと。しかし、周りの人たちとか、それから住宅の事情によってはそうもいかんということで留保したり、それから実際の猶予を持って対応するというようなところも現にあるわけですから、そういう中で見る人によってはいきなりこれを通知を受けたように受け取ると、こういうことでのもう、罰則は、それはないんですからねという話は僕はしますけども、一応法律上はそうなってますということをしなないと、今のような時節ですと、かかろうにもかかるのにお金がかかり、基準でも60万円ほどかかるというようなものにお金はかけられへんというのも現にあるようです。だから、未接続が増えたりすると。こういうような状況ですから、きつく感じるというの当たり前のように思うんですね。だから、できるだけ早く接続をいただくようにというような、法律はこうなってますのでというような、丁寧なことがあれば私はそんなこと言わなかったんやけど、そうやなくて、もうなりませんというようなことになってるからそうだったんだと思います。

それから、再度ここでも確認をしておきますが、一般会計でも言いましたように、委託料等で金額を伏せてあるもの、これは再度説明を求めたいと思います。その点どうですか。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。

下水道の補正につきましては、委託料につきましては、すべて金額が入っております。

以上でございます。

（桜井公晴議員「入っとうけど、入り方が減額でしょ。もとがないんです。

何でわかるん。それ言いようわけや。

説明したらどうや」の声あり）

中身については、これは説明いたしておりますので、要はどちらも実施しなかったということでございますので、そのまま50万円と969万円という金額が当初から置かれていたということでございます。

以上でございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

まず、原案反対の方の発言を許します。

桜井公晴議員。

桜井公晴議員 私は、こういう、先ほどもう一回説明したように、当初からこうあって丸々しなかったんだと、だからこうなんですというようなことも、もとの金額がもともとなかったわけですよ。もとは委託料は金入ってへんのですよ。入ったか。入ってないですよ、すべて。今までからいうて入れてないんですよ。入れてないものは減額になって、いう、だから、入札の結果こうなりますと、これはしなかったからこれですと、こういうようなことになるようなこと自体が問題だと思いますので、入札差金だとか入札残だとかというのが全く言われても説明にならないと。もともと説明してきたものがこうなりましたと、しなかったと、それはつじつまが合うんです。つじつまも合いようがないわけですからね。そういうことの中で補正の合理性とか妥当性を判断せえと言われても、それは無理な話だと思うんです。だから、松尾で昨年か一昨年か、2回工事をやって、結局は責任を追及しても責任を明確にしないと。2回でも3回でも工事してもええような仕組みをあんたらがつくっとんじやないか。わからへんのやから、もとが。これぐらいええかげんな予算を、特に下水道は大型工事が今ま

で続きましたからね。それは許容できないものであるし、すべてが整理されないといけな
いと、こういうふうに思いますので、合理性、妥当性の判断が本当にできないことを押しつけよ
ると、判断してくださいというのはむちゃくちゃなことだと思うんですが、どうですか。ああ、討
論や。だから、こういうふうな、松尾のようなことを繰り返すような予算ですね。こういうよ
うな執行になっていく可能性のありますこと。今回のものも実際はもとがわかりませんので、妥
当性、公正性というも判断できない。こういうことでありますので反対をいたします。制度と
内容の改善を求めます。

議長（北川嘉明） 次に、原案賛成の方の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 原案反対の方の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ほかに討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、これで討論を終わります。

これから議案第7号を採決します。

この採決は挙手によって行います。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

議長（北川嘉明） 挙手多数です。したがって、議案第7号は原案のとおり可決されました。

~~~~~

日程第16 議案第8号 平成20年度
兵庫県太子町前処理場事業
特別会計補正予算（第3号）

議長（北川嘉明） 日程第16、議案第8号平成20年度兵庫県太子町前処理場事業特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

本案については、3月3日に続いて質疑を

行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 討論なしと認めます。

これから議案第8号を採決します。

この採決は挙手によって行います。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

議長（北川嘉明） 挙手多数です。したがって、議案第8号は原案のとおり可決されました。

~~~~~

日程第17 議案第9号 糸井・矢田部
地内客土工事委託変更契約
の締結について

議長（北川嘉明） 日程第17、議案第9号糸井・矢田部地内客土工事委託変更契約の締結についてを議題とします。

本案については、3月3日に続いて質疑を続行します。

質疑はありませんか。

服部千秋議員。

服部千秋議員 助久の土について不安が残りますので質問をいたします。

亜鉛が出たことを土地所有者及び地元自治会や近隣の皆様に知らせる必要はないのか。知らせる必要がないほどの量のものなのか、どうなのか。知らせる必要があるのかどうかという点が1点目です。

2点目ですが、町はあの土地に亜鉛が含まれていると調査結果は何月何日にお知りになったのか。

3点目ですが、あの土地及び周りに亜鉛がしみ出ている、あの土地の底地を変える必要があるのかないのか。もし必要になった場合、その費用は町が負担するのか、東芝が負担するのか。3点お願いします。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。

亜鉛が出ていることにつきましては、住民の皆さんにはお知らせすることは要らないというふうに考えております。この管理基準といえますのは、先ほども言いましたように、汚染土壤の除去等の対策を行うための基準とは異なるものであります。そういった関係から有害ではないということでございます。

それと、町は何月何日にこれがわかったのかというのは、これは私ちょっと手許に資料がございませんので、予算特別委員会の席で報告させていただきます。

それと、もう一点、その土地が問題ないかということでございますけれども、先ほども言いましたように、生物の生育上の問題の管理基準ということから、特に問題はないというふうに考えております。

以上です。

（服部千秋議員「底地を変える必要はないんですね」の声あり）

ですから、特に亜鉛については土壤汚染等の問題ではなく、底地、それを除去したりする必要はないということでございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありますか。

上田富夫議員。

え、4回目ですか。

（上田富夫議員「まだあるやろ、1回。ないか。あるか、ないか」の声あり）

4回目や。失礼しました。4回目であります。

ほかに質疑はありますか。

桜井公晴議員。

桜井公晴議員 もともとこれほんまにこういう土壤が出たところというのが私は知りたいんです。これだけはどこから出して客土用にする、どっからの土なのかが、もともと亜鉛等含有している土ですから、それがどっから出たんですかね。その辺のところは調査

をもうしてなかったらおかしいんやけど、どうなんですか。それだけはっきりまずさせていただきますのと、あとは今まで言うてきたことですから反対討論でももうそんなにやかましく言いませんが、討論では反対しますけれども、この土がどっから出て、客土に使う予定で積んだかということだけは説明してください。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。

前回の後で一応担当課に確認しましたところ、出所については、たつののダイエーの南の農地であったということでございます。

以上でございます。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありますか。

嶋澤達也議員。

嶋澤達也議員 先ほどから客土のことで話題になっておりますが、一応間違いだと思うんですけど、仮にも本会議で劇薬が入ってるというようなことを言われた、いや、発言あるんやからな、そらないと言ったら、わかつとうで、わかってるけど、もうこんだけ問題になってるんで、その富岡部長の答弁については一度、いや、あんたの言うてることわかるんや、わかるけれど、我々は十分に理解しがたい。だから、あの土がどっから来て、それから今現在、先の本会議で片一方は草が生えて片一方は草生えてない、これもおかしな話。というようなことが、それに対して十分に説明は理解しようと努力はするんですけど、なかなか私らの素人では理解しがたい。それが間違った情報であるかどうかということも、これは別として、やはり仮にも本会議でそういうことを議員として発言してるということ、横から聞いとったら重大なことや。横から聞いとったらね。間違いであるということは、今の部長の答弁で理解はするように努力しとんやけど。だから、一度経済建設委員会で少なくとももう少し簡単に、我々にわかるように、この土についてはこんだけ関係ない

んやと、安心なんということを再度整理して教えてください。でないと、私は何やもやもやになってね。どっから出てきたというのを今言われたけど、一応整理して、それで教えてください。

議長（北川嘉明） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） お答えいたします。

当初、予算委員会で説明をするよう担当部署には言ってますけども、それでは経済建設の……。産業経済課が委員会付託はたしかなかったんで、また一番最初か、その付託が終わった後か、いつかの時間を設定していただいてご説明申し上げたいというふうに思います。

以上です。

議長（北川嘉明） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

まず、原案反対の方の発言を許します。

桜井公晴議員。

桜井公晴議員 私は何回も言ってきておりますように、当初からこの工事が倍になり、ほいで土の動きがどういうふうになるか、また下請関係との絡みで排土客土の整理がまだ今の段階ではわからない。そういうような中で町がやっていくのと土地改良がやっていくのと、また東芝自身が具体的にみずからやることと、それぞれ選択ができたはずでありますし、こういうことの不明確なこと、それから下請関係もまだ明確ではありませんので、これらのことについては今の段階でもこの変更契約の締結については認めるわけにいきませんので反対討論といたします。

議長（北川嘉明） 次に、原案賛成の方の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 原案反対の方の発言を

許します。

上田富夫議員。

上田富夫議員 素朴な疑問として、これから採決するというのに後から説明するちゅうなもん、けったいな話やで。ようわからん話をここの議会するな思て。ほいで、採決済んでから説明受けてどないすんねやな。物食うてもうてから吐き出せちゅうのか。そうはいかんだろ。一事不再議、そうはいかんねん。そやから、僕はそんな変なやりとりはやらんほうがいいと思うんですよ、ほんまに。後から説明して、どこの委員会かわけわからんけど、これはもう会議録起こしたら変な話になりますよ。

で、このことはもともと例えば7%の手数料ですか、それが3億円何ぼのときに決まって、それから7億円になってもほとんど金額的には変わらんと説明受けたけど私はやっぱり納得できんし、あとあそこの助久の残土の仮置きにしても、やっぱりカドミとトリクレンの問題もちょっとうわさとして出てますし、やっぱりそういう話が出てくるときには、もう一遍検査やり直したら10万円か20万円ぐらいな予算かかると思いますけれども、やっぱりきちっとそういうふうにも再検査して、こうですよと、間違いはないという、一つ一つやっぱりそういう打ち消すということが僕は非常に大事やと思うんですね。そういうことがもう全然なされんと、いや、どうやこうやというて、ほいであれもどんな形で僕は出すのか、建築残土で出すのか、ただ単にそこらの土として出すのか、それもやっぱり気になるとこですわ。そやから、残土として出すんやったら、やっぱりそうかなと。もし何かがあれば管理方として処分せないかんということになると話が大幅違うてくると思うんで、何かその辺が絶えずもやもやしとんで、もっとしゃきとした答弁というか解決方法をやっぱり提示してもらわんと、私はこれについて賛成はしたいけども、やっぱりそれはでけん、とありますんで、これそういうことを意見をつけ加えて私は反対討論といたしま

す。

議長（北川嘉明） 原案賛成の方の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 原案反対の方の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ほかに討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（北川嘉明） ないようですので、これで討論を終わります。

これから議案第9号を採決します。

この採決は挙手によって行います。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

議長（北川嘉明） 挙手多数です。したがって、議案第9号は原案のとおり可決されました。

以上で本日の日程はすべて終了しました。

お諮りします。

3月10日から3月26日まで委員会審査のため本会議を休会したいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（北川嘉明） 異議なしと認めます。したがって、3月10日から3月26日まで本会議を休会することに決定しました。

次の本会議は3月27日午前10時から再開します。

本日はこれで散会します。

ご苦労さまでした。

（散会 午後4時11分）